

(様式第10)

愛医病管第 79 号

令和 令和4年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人愛知医科大学

理事長 祖父江 元

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
電話(0561) 62 - 3311

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1 呼吸器外科		2 消化器外科		3 乳腺外科		4 心臓外科	
5 血管外科		6 心臓血管外科		7 内分泌外科		8 小児外科	
診療実績							
小児外科は、消化器外科で診療実績としていること。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1 精神科		2 小児科		3 整形外科		4 脳神経外科	
5 皮膚科		6 泌尿器科		7 産婦人科		8 産科	
9 婦人科		10 眼科		11 耳鼻咽喉科		12 放射線科	
13 放射線診断科		14 放射線治療科		15 麻酔科		16 救急科	

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1 小児歯科		2 矯正歯科		3 歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経科	2 頭頸部・耳鼻いんこう科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科
6 疼痛緩和外科	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47				853	900

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	457	202	471.4
歯科医師	13	16	14.3
薬剤師	82	3	84
保健師	0	0	0
助産師	28	0	28
看護師	991	16	1,000.9
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	16	0	16

職種	員数
看護補助者	1
理学療法士	37
作業療法士	12
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	21
栄養士	0
歯科技工士	3
診療放射線技師	67

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	69
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	9	
その他の技術員	42	
事務職員	89	
その他の職員	20	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	52	眼科専門医	17
外科専門医	49	耳鼻咽喉科専門医	13
精神科専門医	10	放射線科専門医	14
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	4	整形外科専門医	18
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	8
産婦人科専門医	14	救急科専門医	9
		合計	242

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (道勇 学) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

・医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	698.7 人	12.4 人	711.1 人
1日当たり平均外来患者数	2468.2 人	106.4 人	2574.6 人
1日当たり平均調剤数			4,036.8 剤
必要医師数			210.7 人

必要歯科医師数	8.0	人
必要薬剤師数	51	人
必要(准)看護師数	442	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	848.66 m ²	鉄筋コンクリート	55 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	243.39	m ²	病床数	15 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	16.11		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	566.47 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置, 検体検査自動化システム		
細菌検査室	149.69 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置, 自動血液培養器		
病理検査室	306.63 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ライカBOND, ライカASP6025, サクラ ティッシュューテック プリズマ		
病理解剖室	108.24 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バイオハザード対策解剖台, 臓器写真撮影装置, ホルミン希釈装置		
研究室	6,746.35 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	3,291.97 m ²	鉄筋コンクリート	室数	20 室	収容定員	2,088 人
図書室	1,976 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	97,300 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.9	%	逆紹介率	57.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,909		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,101		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,661		人
	D: 初診の患者の数		27,893		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
----	----	--------------	------	----------	---------------

黒神聡	愛知学院大学 名誉教授		法律学に関する専門知識に基づいて、教育、研究又は業務を行っている者	無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会 会長		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける立場から意見を述べることができる者	無	2
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
6	球脊髄性筋萎縮症	56	パーチェット病	34
31	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	7
4	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	1
0	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	0
17	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	31
170	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	2
4	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
1	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	76
0	神経有棘赤血球症	64	血柱性血小板減少性紫斑病	1
1	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	4
72	重症筋無力症	66	IgA腎症	25
0	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	22
46	多発性硬化症/視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	6
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	45
2	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	0
0	クドウ・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	20
18	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
45	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
2	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	15
1	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	2
3	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
13	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22
0	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	95
0	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	2
0	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	0
1	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
0	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
34	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	0
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	60
0	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	38
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	5
0	自己貪食空胞性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
13	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	3
15	天疱瘡	90	網膜色素変性症	11
0	表皮水疱症	91	パッド・キアリ症候群	1
6	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	1
0	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性胆管炎	16
0	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	2
12	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	10
3	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	77
9	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	151
30	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	5
11	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
17	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
5	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
4	パージャー病	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
3	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	0
210	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	0
82	皮膚筋炎/多発性筋炎	105	チャーシ症候群	0
80	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
24	混合性結合組織病	107	若年性特発性関節炎	6
15	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
18	成人スチル病	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
6	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	78
合計患者数(人)	1,860

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	1
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167 マルフアン症候群	0
113 筋ジストロフィー	2	168 エーラス・ダンロス症候群	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169 メンケス病	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
116 アトピー性脊髄炎	0	171 ウィルソン病	1
117 脊髄空洞症	3	172 低ホスファターゼ症	0
118 脊髄髄膜瘤	0	173 VATER症候群	0
119 アイザックス症候群	2	174 那須・ハコラ病	0
120 遺伝性ジストニア	1	175 ウィーパー症候群	0
121 神経フェリチン症	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
122 脳表ヘモジドリン沈着症	1	177 ジュベール症候群関連疾患	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180 ATR - X症候群	0
126 ベリー症候群	0	181 クルーゾン症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0	182 アペール症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	183 ファイファー症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	185 コフィン・シリズ症候群	0
131 アレキサンダー病	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	187 歌舞伎症候群	0
133 メビウス症候群	0	188 多脾症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189 無脾症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	190 鯉耳腎症候群	0
136 片側巨脳症	0	191 ウェルナー症候群	1
137 限局性皮質異形成	0	192 コケイン症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	1
139 先天性大脳白質形成不全症	0	194 ソトス症候群	0
140 ドラベ症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	197 1p36欠失症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198 4p欠失症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	0	199 5p欠失症候群	0
145 ウェスト症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146 大田原症候群	0	201 アンジェルマン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	202 スミス・マギニス症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203 22q11.2欠失症候群	1
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204 エマヌエル症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
151 ラスマッセン脳炎	1	206 脆弱X症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208 修正大血管転位症	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209 完全大血管転位症	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	210 単心室症	0
156 レット症候群	0	211 左心低形成症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	212 三尖弁閉鎖症	0
158 結節性硬化症	1	213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159 色素性乾皮症	0	214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160 先天性魚鱗癬	0	215 ファロー四徴症	0
161 家族性良性慢性天疱瘡	0	216 両大血管右室起始症	0
162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	10	217 エプスタイン病	0
163 特発性後天性全身性無汗症	25	218 アルポート症候群	1
164 眼皮膚白皮症	0	219 ギャロウェイ・モワット症候群	0
165 肥厚性皮膚骨膜炎	0	220 急速進行性糸球体腎炎	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	15
合計患者数(人)	52

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	抗糸球体基底膜腎炎	276	軟骨無形成症	0
31	一次性ネフローゼ症候群	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
0	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
4	紫斑病性腎炎	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
0	先天性腎性尿崩症	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
0	間質性膀胱炎(ハンナ型)	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
2	オスラー病	282	先天性赤血球形形成異常性貧血	0
0	閉塞性細気管支炎	283	後天性赤芽球癆	2
10	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
1	肺胞低換気症候群	285	ファンconi貧血	0
0	1-アンチトリプシン欠乏症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
0	カーニー複合	287	エプスタイン症候群	0
0	ウォルフラム症候群	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
0	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
0	副甲状腺機能低下症	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
1	偽性副甲状腺機能低下症	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
0	副腎皮質刺激ホルモン不応症	292	総排泄腔外反症	0
5	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	293	総排泄腔遺残	0
0	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
0	フェニルケトン尿症	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
0	高チロシン血症1型	296	胆道閉鎖症	1
0	高チロシン血症2型	297	アラジール症候群	0
0	高チロシン血症3型	298	遺伝性膀胱炎	0
0	メーブルシロップ尿症	299	嚢胞性線維症	0
0	プロピオン酸血症	300	IgG4関連疾患	20
0	メチルマロン酸血症	301	黄斑ジストロフィー	0
0	イソ吉草酸血症	302	レーベル遺伝性視神経症	0
0	グルコーストランスポーター1欠損症	303	アッシャー症候群	0
0	グルタル酸血症1型	304	若年発症型両側性感音難聴	0
0	グルタル酸血症2型	305	遅発性内リンパ水腫	0
0	尿素サイクル異常症	306	好酸球性副鼻腔炎	66
0	リジン尿性蛋白不耐症	307	カナパン病	0
0	先天性葉酸吸収不全	308	進行性白質脳症	0
0	ポルフィリン症	309	進行性ミオクローヌスてんかん	6
0	複合カルボキシラーゼ欠損症	310	先天異常症候群	1
0	筋型糖原病	311	先天性三尖弁狭窄症	1
1	肝型糖原病	312	先天性僧帽弁狭窄症	2
0	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	313	先天性肺静脈狭窄症	0
0	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	314	左肺動脈右肺動脈起始症	1
0	シトステロール血症	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
0	タンジール病	316	カルニチン回路異常症	91
1	原発性高カイロミクロン血症	317	三頭筋欠損症	0
0	脳腫黄色腫症	318	シトリン欠損症	1
0	無リポタンパク血症	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	脂肪萎縮症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
1	家族性地中海熱	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
0	高IgD症候群	322	ケトオラーゼ欠損症	0
0	中條・西村症候群	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
0	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	慢性再発性多発性骨髄炎	325	遺伝性自己炎症疾患	1
12	強直性脊椎炎	326	大理石骨病	1
0	進行性骨化性線維異形成症	327	特異性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
0	肋骨異常を伴う先天性側弯症	328	前眼部形成異常	0
0	骨形成不全症	329	無虹彩症	0
0	タナトフォリック骨異形成症	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	31
合計患者数(人)	274

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・入退院支援加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料	・精神科急性期医師配置加算
・救急医療管理加算	・排尿自立支援加算
・超急性期脳卒中加算	・地域医療体制確保加算
・診療録管理体制加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料3
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料4
・看護職員夜間配置加算	・特定集中治療室管理料2
・療養環境加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
・外来栄養食事指導料の注2	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・糖尿病合併症管理料	・椎間板内酵素注入療法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・がん患者指導管理料イ	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・がん患者指導管理料ロ	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者指導管理料ハ	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・がん患者指導管理料ニ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・糖尿病透析予防指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術 型(拡大副鼻腔手術)
・婦人科特定疾患治療管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・腎代替療法指導管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・院内トリアージ実施料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・外来放射線照射診療料	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ニコチン依存症管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・がん治療連携計画策定料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・がん治療連携指導料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・薬剤管理指導料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・医療機器安全管理料1	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・医療機器安全管理料2	・内視鏡下筋層切開術
・医療機器安全管理料(歯科)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・精神科退院時共同指導料1及び2	・胸腔鏡下弁形成術
・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・胸腔鏡下弁置換術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経皮的中心筋焼灼術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・遺伝学的検査	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・精密触覚機能検査	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・骨髄微小残存病変量測定	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・BRCA1/2遺伝子検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・がんゲノムプロファイリング検査	・補助人工心臓
・先天性代謝異常症検査	・経皮的下肢動脈形成術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・検体検査管理加算()	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下肝切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・生体部分肝移植術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術

・脳波検査判断料1	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・単線維筋電図	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下で行うもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・神経学的検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ロービジョン検査判断料	・同種死体腎移植術
・コンタクトレンズ検査料1	・生体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・膀胱水圧拡張術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層撮影	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨脛固定術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下仙骨脛固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・乳房MRI撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・頭部MRI撮影加算	・輸血管管理料
・全身MRI撮影加算	・輸血適正使用加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・コーディネート体制充実加算
・外来化学療法加算1	・同種クリオプレシビート作製術
・連携充実加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・無菌製剤処理料	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・心大血管疾患リハビリテーション料()	・歯周組織再生誘導手術
・脳血管疾患等リハビリテーション料()	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・運動器リハビリテーション料()	・歯根端切除手術の注3
・呼吸器リハビリテーション料()	・麻酔管理料()

・がん患者リハビリテーション料	・麻酔管理料()
・リンパ浮腫複合的治療料	・放射線治療専任加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・外来放射線治療加算
・療養生活環境整備指導加算	・高エネルギー放射線治療
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・1回線量増加加算
・医療保護入院等診療料	・強度変調放射線治療(IMRT)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・硬膜外自家血注入	・体外照射呼吸性移動対策加算
・人工腎臓	・定位放射線治療
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・手術用顕微鏡加算	・病理診断管理加算1
・CAD/CAM冠	・病理診断管理加算2
・歯科技工加算1及び2	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・センチネルリンパ節加算	・口腔病理診断管理加算2
・皮膚移植術(死体)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	,

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床科病理症例検討会 43回 がんサーボード 6回 ミニCPC 3回 / CPC 5回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	13
	剖検率(%)	1.9

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
脂肪肝を背景とする代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	米田 政志	肝胆膵内科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御	伊藤 清顕	肝胆膵内科	62,630,000	補 委	日本医療研究開発機構
B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析	伊藤 清顕	肝胆膵内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
コノフィリンによるNASH進展抑制機序の解明	中出 幸臣	肝胆膵内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
胆管癌に対する新規局所治療法の開発	井上 匡央	肝胆膵内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
胆管金属ステント内腫瘍増殖に対するバルーンアブレーション療法の開発	井上 匡央	肝胆膵内科	500,000	補 委	内視鏡医学研究振興財団
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討	中野 雄介	循環器内科	520,000	補 委	日本学術振興会
若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討	安藤 博彦	循環器内科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発	天野 哲也	循環器内科	10,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
COVID流行下における冠動脈インターベンションレジストリー創設・アウトカム研究	天野 哲也	循環器内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明	伊藤 理	呼吸器・アレルギー内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析	高木 潤子	内科学講座 (内分泌・代謝内科)	1,950,000	補 委	日本学術振興会
家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘 - 新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ	森田 博之	内科学講座 (内分泌・代謝内科)	1,040,000	補 委	日本学術振興会
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	道勇 学	内科学講座(神経内科)	1,000,000	補 委	厚生労働省
パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性	田口 宗太郎	パーキンソン病総合治療センター	1,040,000	補 委	日本学術振興会

大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	15,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた開発研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	15,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
TDP-43を標的とした筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と制御	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	2,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA代謝異常とシナプス形態に基づく筋萎縮性側索硬化症の病態解明、治療法研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	2,400,000	補 委	日本医療研究開発機構
神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	30,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	6,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	6,240,000	補 委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	道勇 学	内科学講座(神経内科)	910,000	補 委	日本学術振興会
疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発	伊藤 卓治	内科学講座(神経内科)	2,080,000	補 委	日本学術振興会
iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析	丹羽 淳一	内科学講座(神経内科)	1,690,000	補 委	日本学術振興会
内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立	伊藤 恭彦	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発	石本 卓嗣	腎臓・リウマチ膠原病内科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発	神谷 圭介	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
補体活性と糖鎖異常に着目した二次性血栓性微小血管症(TMA)の病態解明	勝野 敬之	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明	中村 二郎	糖尿病内科	1,950,000	補 委	日本学術振興会

糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた治療法の開発	神谷 英紀	糖尿病内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害の病態におけるATP感受性Kチャンネルの役割の解明	加藤 義郎	糖尿病内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立	恒川 新	糖尿病内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
CIDE-A - AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索	森下 啓明	糖尿病内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	中村 二郎	糖尿病内科	5,460,000	補委	厚生労働省
MERS - 異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明	奥村 彰久	小児科	期間延長のため 0	補委	日本学術振興会
乳児期発症てんかんの遺伝学的解析に基づく精密医療の基盤構築	奥村 彰久	小児科	1,560,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群に起因するSGAの慢性肺疾患の重症化機序解明と新規治療法開発	奥村 彰久	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立	奥村 彰久	小児科	3,000,000	補委	厚生労働省
小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に向けた体制整備	奥村 彰久	小児科	9,000,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんに関する包括的研究	奥村 彰久	小児科	31,000,000	補委	厚生労働省
急性弛緩性麻痺、急性脳炎・脳症等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究	奥村 彰久	小児科	8,223,000	補委	厚生労働省
結節性硬化症のてんかんおよび神経発達症に関連するバイオマーカーの探索	奥村 彰久	小児科	1,600,000	補委	てんかん治療研究振興財団
グリアに着目した急性脳炎・脳症の病態解明と新規治療法の開発	倉橋 宏和	小児科	期間延長のため 0	補委	日本学術振興会
MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明	倉橋 宏和	小児科	1,170,000	補委	日本学術振興会
ビタミンB6依存性てんかんの実態解明と包括的診療指針の作成	倉橋 宏和	小児科	期間延長のため 0	補委	てんかん治療研究振興財団
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の診断・治	岩山 秀之	小児科	10,000,000	補	厚生労働

高度化医療システムの構築・研究システム構築	岩山 秀之	小児科	10,000,000	委	省
MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析	岩山 秀之	小児科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
低身長児に対するコロナ禍の影響	岩山 秀之	小児科	1,200,000	補 委	公益財団法人成長科学協会
次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索	東 慶輝	小児科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
バーチャリアリティ技術を用いたMRI非腫瘍性乳癌手術支援システムの開発	中野 正吾	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
マイクロ波イメージングを用いた乳癌画像診断装置の開発	藤井 公人	乳腺・内分泌外科	3,738,842	補 委	厚生労働省
慢性硬膜下血腫にたいするエビデンスのある薬剤の解明	青山 正寛	脳神経外科	390,000	補 委	日本学術振興会
若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か？	松下 宏	産科・婦人科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究	若槻 明彦	産科・婦人科	300,000	補 委	日本学術振興会
ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究	篠原 康一	産科・婦人科	100,000	補 委	日本学術振興会
不眠に伴う恐怖記憶定着と循環障害への免疫監視機構関与と麻酔薬修飾効果に関する研究	渡辺 員支	周産期母子医療センター	50,000	補 委	日本学術振興会
重症循環器疾患、脳血管疾患合併症妊娠の予後改善因子の研究 (分担)家庭血圧による妊娠高血圧症候群の早期診断と予後予測の試み	渡辺 員支	周産期母子医療センター	200,000	補 委	2021年度循環器病研究開発費
閉経後女性における認知機能に対するローヤルゼリーの効果の研究	松下 宏	産科・婦人科	6,000,000	補 委	一般社団法人全国ローヤルゼリー公正取引協議会
食品由来成分による閉経後骨量減少に対する抑制効果の研究	松下 宏	産科・婦人科	500,000	補 委	一般財団法人 愛知健康増進財団
細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定	宮崎 英隆	眼形成・眼窩・涙道外科	390,000	補 委	日本学術振興会

頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明-免疫学的頸部郭清術の確立を目指して	小川 徹也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究	小川 徹也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	期間延長のため 0	補委	日本学術振興会
320列ADCTを用いた下咽頭癌術後嚥下機能障害の解析	丸尾 貴志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	520,000	補委	日本学術振興会
大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化	伊藤 誠	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会
抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立	成田 晶子	放射線科	1,430,000	補委	日本学術振興会
RNAiを用いた脳水チャネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用	藤田 義人	周術期集中治療部	期間延長のため 0	補委	日本学術振興会
脳水チャネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護	石原 亮太	麻酔科	780,000	補委	日本学術振興会
Regulation of inflammatory response by autonomic nervous system in macrophages	馮 国剛	麻酔科	1,560,000	補委	日本学術振興会
侵襲時の栄養代謝動態の変化と治療的介入の可能性	苛原 隆之	救命救急科	1,300,000	補委	日本学術振興会
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	三嶋 廣繁	感染症科	7,950,000	補委	厚生労働省
医療機関における院内感染対策の質向上のための研究	三嶋 廣繁	感染症科	350,000	補委	厚生労働省
COVID-19患者における後遺症と抗体価の推移に関する研究	三嶋 廣繁	感染症科	53,000,000	補委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用	都築 豊徳	病理診断科	2,860,000	補委	日本学術振興会
RNAscopeを用いた末梢性T細胞性リンパ腫、非特定型の微小環境解析	佐藤 啓	病理診断科	1,690,000	補委	日本学術振興会
腎細胞癌におけるTGF-発現の意義の解析	高原 大志	病理診断科	1,820,000	補委	日本学術振興会

cT~3NOMO膀胱癌を対象としたAtezolizumab併用放射線療法に関する第Ⅲ相医師主導多施設共同試験	都築 豊徳	病理診断科	4,125,000	補 委	国立大学 法人筑波 大学
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)時の筋層非浸潤膀胱癌(NMIBC)の患者を対象としたSPP-005の光線力学診断の用法変更に関する第Ⅲ相試験における病理中央判定	都築 豊徳	病理診断科	1,254,000	補 委	SBIファーマ株式会社
未治療日本人転移性腎細胞患者を対象としたニボルマブ・イピリムマブ併用療法の有効性と安全性に関する前向き観察研究(J-ENCORE)	都築 豊徳	病理診断科	258,500	補 委	メビックス株式会社
マイクロ流体デバイスを用いた血中循環がん細胞クラスター抽出法の開発	各務 秀明	歯科口腔外科	2,470,000	補 委	日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析:抗加齢作用に注目して	中山 享之	中央臨床検査部	1,430,000	補 委	日本学術振興会
尿毒素によるNotchシグナルと代謝リプログラミングを介した血管障害の病態解明	中山 享之	中央臨床検査部	100,000	補 委	日本学術振興会
ケモカイン抑制能を強化した新規間葉系幹細胞による慢性閉塞性肺疾患の細胞療法開発	中山 享之	中央臨床検査部	100,000	補 委	日本学術振興会
血友病関節症の解明と新規治療法開発:骨芽細胞、MSC、メトホルミンに着目して	小川 実加	中央臨床検査部	1,560,000	補 委	日本学術振興会
血友病関節症治療におけるアンメットニースの解決を目指して	小川 実加	中央臨床検査部	1,000,000	補 委	愛知医科大学
良質な臍帯血の効率的な採取と調整保存ならびに移植用いる臍帯血の選択と安全性に関わる運用に関する研究	加藤 栄史	輸血部	700,000	補 委	厚生労働省
輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	加藤 栄史	輸血部	500,000	補 委	厚生労働省
骨格筋再生による疼痛性癒痕治療法の研究:間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析	牛田 享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	1,170,000	補 委	日本学術振興会
腸内細菌叢の痛みの認知や調節機能におよぼすメカニズム	新井 健一	疼痛緩和外科・いたみセンター	910,000	補 委	日本学術振興会

ホルモンの変動に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究	井上 真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	1,560,000	補委	日本学術振興会
若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討	尾張 慶子	疼痛緩和外科・いたみセンター	260,000	補委	日本学術振興会
歯科慢性痛患者を対象とした認知行動療法プログラムの作成と有効性の検討	西須 大徳	疼痛緩和外科・いたみセンター	200,000	補委	日本学術振興会
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	牛田 享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	5,000,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛患者に対する簡便かつ多面的な疼痛感作評価方の開発	牛田 享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	1,000,000	補委	厚生労働省
慢性の痛み患者への就労支援/仕事と治療の両立支援および労働生産性の向上に寄与するマニュアルの開発と普及・啓発	井上 真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	300,000	補委	厚生労働省
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明と患者ケアの向上を目指した複数疾患領域統合多施設共同疫学研究	西原 真理	疼痛緩和外科・いたみセンター	300,000	補委	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業東海・北陸ブロック	牛田 享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	4,000,000	補委	厚生労働省
副腎不全とグリアに注目した脳室周囲白質軟化症の病態解明と新規予防法の確立	上田 博子	周産期母子医療センター	1,430,000	補委	日本学術振興会
低体温療法を中心としたグリアの機能制御による新生児脳障害の包括的な新規治療戦略	垣田 博樹	周産期母子医療センター	1,560,000	補委	日本学術振興会
NICU入院中の早期運動負荷による新たな早産児の発育改善への試み	森 麻里	周産期母子医療センター	260,000	補委	日本学術振興会
SGA児の血小板減少の機序解明と血小板制御による神経発達改善への治療戦略	竹下 覚	周産期母子医療センター	1,430,000	補委	日本学術振興会

計 101件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kazuhiro Nagao, Masahide Ebi, Takaya Shimura, et al.	消化管内科	The Modified eCure System for Identifying High-Risk Lymph Node Metastasis in Patients with Early Gastric cancer resected by Endoscopic Submucosal Dissection.	Gastroenterol Insights. 2022;13:60-67	Original Article
2	Koshino A, Nagano A, Ota A, et al.	消化管内科	PBK Enhances Cellular Proliferation With Histone H3 Phosphorylation and Suppresses Migration and Invasion With CDH1 Stabilization in Colorectal Cancer.	Front Pharmacol. 2022 Jan 18;12:772926	Original Article
3	Ogasawara N, Funaki Y, Kasugai K, et al.	消化管内科	Overlap Between Constipation and Gastroesophageal Reflux Disease in Japan: Results from an Internet Survey.	J Neurogastroenterol Motil. 2022 Apr 30;28(2):291-302.	Original Article
4	Kazuhiro Nagao, Akira Koshino, Akane Sugimura-Nagata, et al.	消化管内科	The Complete Loss of p53 Expression Uniquely Predicts Worse Prognosis in Colorectal Cancer.	Int J Mol Sci. 2022;23:3252.	Original Article
5	Sayuri Yamamoto, Wataru Ohashi, Yoshiharu Yamaguchi, et al.	消化管内科	Background factors involved in the epidemiology of functional constipation in the Japanese population: a cross-sectional study	BioPsychoSocial Medicine. 2022;16:8.	Original Article
6	Naotaka Ogasawara, Satoshi Ono, Tomoya Sugiyama, et al.	消化管内科	Small-Intestinal Metastasis from Lung Carcinoma.	Case Rep Gastroenterol. 2022;16:195-200.	Case report

7	Tomoya Sugiyama, Makoto Sasaki, Shoko Nakagawa, et al.	消化管内科	Evaluation of Loss of Response to Anti-Tumor Necrosis Factor- Biologic Agents in Patients with Crohn's Disease: A Multicenter, Retrospective Study	Gut and Gastroenterology. 2021;4(1):1-5.	Original Article
8	Sugimura-Nagata A, Koshino A, Nagao K, et al.	消化管内科	SPATA18 Expression Predicts Favorable Clinical Outcome in Colorectal Cancer Sugimura-Nagata A, Koshino A, Nagao K, et al.	Int J Mol Sci. 2022 Mar 2;23(5):2753.	Original Article
9	Ebi M, Nagao K, Sugiyama T, Yamamoto K, et al.	消化管内科	Gastric Plexiform Fibromyxoma Resected Using Nonexposed Endoscopic Wall-Inversion Surgery:A Case Report	Case Rep Gastroenterol. 2022 Mar 28;16(1):159-164.	Case report
10	Inoue T, Naitoh I, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Endobiliary Radiofrequency Ablation Combined with Gemcitabine and Cisplatin in Patients with Unresectable Extrahepatic Cholangiocarcinoma.	Curr Oncol. 2022 Mar 23;29(4):2240-2251	Original Article
11	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Novel helical eight-wire basket for retrieving small bile duct stones in the corner pocket of the lower bile duct.	Endosc Int Open. 2022 Feb 15;10(2):E222-E223	Case report
12	Nakade Y, Kitano R, Yamauchi T, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Effect of Central Corticotropin-Releasing Factor on Hepatic Lipid Metabolism and Inflammation-Related Gene Expression in Rats.	Int J Mol Sci. 2021 Apr 11;22(8):3940	Original Article
13	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Radial incision and cutting combined with balloon dilation for refractory pancreaticojejunostomy anastomotic strictures	Endosc Int Open. 2021 Apr;9(4):E578-E582	Original Article
14	Kitano R, Inoue T, Ibusuki M, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Safety and Efficacy of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography in Patients with Performance Status 4.	Dig Dis Sci. 2021 Apr;66(4):1291-1296	Original Article

15	Ito K, Okumura A, Takeuchi J, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Dual Agonist of Farnesoid X Receptor and G Protein-coupled Receptor TGR5 Inhibits Hepatitis B Virus Infection in Vitro and in Vivo	Hepatology. 2021 Jul;74(1):83-98	Original Article
16	Inoue T, Kitano R, Ibusuki M, Kobayashi Y, Ito K, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Simultaneous triple stent-by-stent deployment following endobiliary radiofrequency ablation for malignant hilar biliary obstruction	Endoscopy . 2021;53(5):E162-E163.	Case report
17	Inoue T, Naitoh I, Suzuki Y, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Multi-center study of endoscopic revision after side-by-side metal stent placement for malignant hilar biliary obstruction	Dig Endosc. 2021;33(5):807-814.	Original Article
18	Inoue T, Kitano R, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Hyperkalemia after endobiliary radiofrequency ablation for malignant biliary obstruction	Dig Endosc. 2021;33(5):874-875.	Case report
19	Inoue T, Kitano R, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Endobiliary radiofrequency ablation for ingrowth occlusion after bilateral metal stent placement in patients with malignant hilar biliary obstruction	Endosc Int Open. 2021;9(6):E907-E908.	Case report
20	Inoue T, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Updated evidence on the clinical impact of endoscopic radiofrequency ablation in the treatment of malignant biliary obstruction	Dig Endosc. 2022;34(2):345-358.	Review
21	Inoue T, Kutsumi H, Ibusuki M, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Feasibility of balloon-based endobiliary radiofrequency ablation under cholangioscopy guidance in a swine model	Sci Rep. 2021;11(1):14254.	Original Article
22	Inoue T, Yoshida M, Suzuki Y, Kitano R, Okumura F, Naitoh I.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Long-Term Outcomes of Endoscopic Gallbladder Drainage for Cholecystitis in Poor Surgical Candidates: An Updated Comprehensive Review	J Clin Med. 2021;10(21):4842.	Review
23	Sumida Y, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	COVID-19-associated liver injury (COVALI): role of hepatologists.	J Gastroenterol. 2021 Aug;56(8):786-787.	Original Article

24	Sumida Y, Yoneda M, Seko Y,	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD). Role of vitamin E in the treatment of non-alcoholic steatohepatitis.	Free Radic Biol Med. 2021Dec;177:391-403.	Original Article
25	Sumida Y, Yoneda M, Tokushige K,	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Japan Study Group Of Nafld Jsg-Nafld. FIB-4 First in the Diagnostic Algorithm of Metabolic- Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease in the Era of the Global Metabodemic.	Life (Basel). 2021 Feb 14;11(2):143.	Original Article
26	Ibusuki M, Inoue T, Kitano R,	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Gemcitabine plus nab- paclitaxel with initial dose reduction for older patients with advanced pancreatic cancer.	J Geriatr Oncol. 2021 Jan;12(1):118-121.	Original Article
27	Nakade Y, Kitano R, Sakamoto K,	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Characteristics of bile acid composition in high fat diet-induced nonalcoholic fatty liver disease in obese diabetic rats.	PLoS One. 2021 Feb 24;16(2):e0247303.	Original Article
28	Ohashi H, Ando H, Otsuka F, et al.	循環器内科	Histopathologically confirmed intraplaque haemorrhage in a patient with unstable angina.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2022 Mar 22;23(4):e165.	Case report
29	Nakano Y, Ando H, Suzuki W, et al.	循環器内科	Effects of ivabradine on the prevention of intradialytic hypotension in a dialytic patient with heart failure with reduced ejection fraction.	BMJ Case Rep. 2021 Nov 30;14(11):e246011.	Case report
30	Suzuki W, Nakano Y, Ando H, et al.	循環器内科	Dynamic Changes in Coronary Flow Pattern During Transcatheter Aortic Valve Replacement in Severe Aortic Stenosis.	JACC Case Rep. 2021 Oct 6;3(13):1480-1482.	Case report
31	Nakano Y, Ando H, Suzuki W, et al.	循環器内科	Impact of ivabradine in decompensated heart failure due to cancer therapy- related cardiac dysfunction.	Clin Case Rep. 2021 May 5;9(5):e04133.	Case report

32	Ando H, Nakano Y, Sawada H, et al.	循環器内科	Diagnostic Performance of High-Resolution Intravascular Ultrasound for Abnormal Post-Stent Findings After Stent Implantation - A Comparison Study Between High-Resolution Intravascular Ultrasound and Optical Coherence Tomography.	Circ J. 2021 May 25;85(6):883-890.	Original Article
33	Ito S	呼吸器・アレルギー内科	Stretch-activated calcium mobilization in airway smooth muscle and pathophysiology of asthma.	Curr Opin Physiol 2021; 21: 62-70.	Review
34	Kajikawa S, Ohashi W, Kato Y, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Prognostic impact of serum procalcitonin in non-small cell lung cancer.	Tumori 2021; 107: 385-391.	Original Article
35	Shibata H, Takeda N, Suzuki Y,	呼吸器・アレルギー内科	Effects of high-flow nasal cannula oxygen therapy on oral intake of do-not-intubate patients with respiratory diseases.	Nagoya J Med Sci 2021; 83: 509-522.	Original Article
36	Kajikawa S, Suzuki K, Matsunaga N,	呼吸器・アレルギー内科	Bronchial carcinoid tumor managed with bronchial artery embolization before endobronchial resection: A case report.	Thorac Cancer 2021; 12: 2134-2137.	Case report
37	Katano T, Murao H, Kato T, et al.	呼吸器・アレルギー内科	A case of acute inhalation injury caused by premeditated chlorine gas exposure.	Respirol Case Rep 2021; 9: e00743.	Case report
38	Taguchi S, Koide H, Oiwa H, Hayashi M, et al.	内科学講座(神経内科)	Antiparkinsonian drugs as potent contributors to nocturnal sleep in patients with Parkinson's disease.	PLoS One 2021; 16(7) e0255274. doi: 10.1371/journal.pone.0255274. 2021.6	Original Article

39	Tanaka A, Yamaguchi M, Ishimoto T, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association of alcohol consumption with the incidence of proteinuria and chronic kidney disease: a retrospective cohort study in Japan.	Nutr J. 2022 May 14;21(1):31.	Original Article
40	Kitamura F, Yamaguchi M, Katsuno T, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Relationship between doses of antihypertensive drugs and left ventricular mass index changes in hemodialysis patients in a Japanese cohort.	Ren Fail. 2021 Dec;43(1):188-197.	Original Article
41	Banno S, Yamaguchi E, Iwagitsu S, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Long-term good outcome of the fibrocavitary form of pulmonary Mycobacterium avium complex disease with concomitant abatacept monotherapy in a patient with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Jan 7;6(1):1-5.	Case report
42	Nobata H, Katsuno T, Kachi A, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Diversity of Renal Involvement in Antiphospholipid Syndrome Based on Pathological Findings and Treatment Responses.	J Clin Rheumatol. 2021 Dec 1;27(8S):S495-S497.	Letter
43	Asai A, Hatayama N, Kamiya K, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Roles of glomerular endothelial hyaluronan in the development of proteinuria.	Physiol Rep. 2021 Sep;9(17):e15019.	Original Article
44	Asai A, Kinashi H, Suzuki Y, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Safety and utility of the alpha-replacer for treatment of intraluminal obstruction of peritoneal catheters by fibrin clots.	Clin Exp Nephrol. 2021 Apr;25(4):418-427.	Original Article
45	Ito M, Yamaguchi M, Katsuno T, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association between serum magnesium levels and abdominal aorta calcification in patients with pre-dialysis chronic kidney disease stage 5.	PLoS One. 2021 Jun 18;16(6):e0253592.	Original Article

46	Hideki Kamiya, Yuka Shibata, Tatsuhito Himeno	糖尿病内科	Point-of-care nerve conduction device predicts the severity of diabetic polyneuropathy: A quantitative, but easy-to-use, prediction model	J Diabetes Investig · 2021.4	Original Article
47	Yoshiaki Morishita, Aaron P Kellogg, Dennis Larkin	糖尿病内科	Cell death-associated lipid droplet protein CIDE-A is a noncanonical marker of endoplasmic reticulum stress	JCI Insight · 2021.4	Original Article
48	Yuichiro Yamada, Tatsuhito Himeno , Kotaro Tsuboi	糖尿病内科	Alterations of retinal thickness measured by optical coherence tomography correlate with neurophysiological measures in diabetic polyneuropathy	J Diabetes Investig · 2021.8	Original Article
49	Hiromi Nakai- Shimoda, Tatsuhito Himeno, Tetsuji Okawa	糖尿病内科	Kir6.2-deficient mice develop somatosensory dysfunction and axonal loss in the peripheral nerves	iScience · 2021.12	Original Article
50	Miyuka Kawai , Tatsuhito Himeno , Yuka Shibata	糖尿病内科	Neuroretinal dysfunction revealed by a flicker electroretinogram correlated with peripheral nerve dysfunction and parameters of atherosclerosis in patients with diabetes	J Diabetes Investig · 2021.7	Original Article
51	Takeuchi N	精神科学講座	Mechanisms of Long- Latency Paired Pulse Suppression: MEG Study	Brain Topogr. 2022 Mar	Original Article
52	Kawai M	精神科学講座	Differences in aggression as psychiatric side effect of levetiracetam and perampanel in patients with epilepsy.	Epilepsy Behav. 2022 Jan	Original Article

53	Sakurai H	精神科学講座	Quality of life for patients with psychogenic nonepilepsy seizures in comparison with age- and gender-matched patients with epilepsy - Cross-sectional study	Epilepsy Behav. 2022 Mar	Original Article
54	Kanemoto K	精神科学講座	Psychotic Disorders in Epilepsy: Do They Differ from Primary Psychosis?	Curr Top Behav Neurosci.2022	Review
55	Okumura A, Muto T, Nakamura N	小児科	A pilot study of serum free carnitine levels in hospitalized febrile children .	Pediatr Int . 2021;63:102-3 .	Original Article
56	Okumura A, Kitai Y, Arai H	小児科	Auditory brainstem response in preterm infants with bilirubin encephalopathy .	Early Hum Dev . 2021;154:105319.	Original Article
57	Okumura A, Kitai Y, Arai H .	小児科	Magnetic resonance imaging abnormalities during the neonatal period in preterm infants with bilirubin encephalopathy .	Pediatr Neonatol . 2021; 62: 567-8 .	Original Article
58	Okumura A, Numoto S, Iwayama H	小児科	Carnitine supplementation prevents carnitine deficiency caused by pivalate-conjugated antibiotics in patients with epilepsy prescribed valproate .	Epilepsy Behav . 2021;117:107883 .	Original Article
59	Okumura A, Ichimura S, Hayakawa M	小児科	Neonatal jaundice in preterm infants with bilirubin encephalopathy .	Neonatology . 2021; 118:301-9 .	Original Article
60	Okumura A, Kitai Y, Arai H	小児科	Magnetic resonance imaging findings in preterm infants with bilirubin encephalopathy beyond three years corrected age .	Pediatr Neurol. 2021;121:56-8 .	Original Article
61	Okumura A, Takagi M, Numoto S	小児科	Effects of l-carnitine supplementation in patients with childhood-onset epilepsy prescribed valproate .	Epilepsy Behav . 2021;122:108220.	Original Article

62	Iwayama H, Kitagawa S, Sada J	小児科	Insulin-like growth factor-1 level is a poor diagnostic indicator of growth hormone deficiency .	Sci Rep . 2021;11:16159 .	Original Article
63	Iwayama H, Tanaka T, Aoyama K	小児科	Regional difference in myelination in monocarboxylate transporter 8 deficiency: Case reports and literature review of cases in Japan .	Front Neurol . 2021;12:657820 .	Original Article
64	Iwayama H, Kakita H, Iwasa M	小児科	Measurement of reverse triiodothyronine level and the triiodothyronine to reverse triiodothyronine ratio in dried blood spot samples at birth may facilitate early detection of monocarboxylate transporter 8 deficiency .	Thyroid . 2021;31:1316-21 .	Original Article
65	Miyamoto R, Okumura A .	小児科	Response to a letter to the editor by Dong et al .	Acta Paediatr. 2021;110:1968 .	Letter
66	Miyamoto R, Sada J, Ota K	小児科	Neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency with no hepatic steatosis: a case report .	BMC Pediatr . 2021;21:237 .	Original Article
67	Numoto S, Kurahashi H, Sato A	小児科	Acute encephalopathy in children with tuberous sclerosis complex .	Orphanet J Rare Dis . 2021;16:5 .	Original Article
68	Numoto S, Kurahashi H, Takagi M	小児科	Sodium channel blockers are effective for benign infantile epilepsy .	Orphanet J Rare Dis . 2021;16:5 .	Original Article
69	Fukami Y, Saito T,Osawa T, et al.	消化器外科	Preoperative controlling nutritional status plus tumor burden (CONUT-TB) score for the assessment of prognosis after curative liver resection for hepatocellular carcinoma.	Medical Principles and Practice. 2021;30(2):131-137	Original Article

70	Kato S, Kaneko K, Matsushita N, et al.	消化器外科	Calcium bilirubinate sludge causes early onset of congenital biliary dilatation: a report of two cases.	Surgical Case Reports. 2021;7(1):92	Case report
71	Fukami Y,Saito T,Osawa T,et al.	消化器外科	Which is the best predictor of clinically relevant pancreatic fistula after pancreatectomy: drain fluid concentration or total amount of amylase ?	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021;5(6):844-852	Original Article
72	Hanazawa T, Fukami Y,Osawa T, et al.	消化器外科	A case of resected hepatocellular carcinoma with gallbladder metastasis.	Surgical Case Reports. 2021;7(1):145	Case report
73	Matsumura T,Komatsu S,Komaya K, et al.	消化器外科	Dual common bile duct examination with transcystic choledochoscopy and cholangiography in laparoscopic cholecystectomy for suspected choledocholithiasis:a prospective study.	Surgical Endoscopy. 2021;35(7):3379-3386	Original Article
74	Saito T,Iwamoto S,Murotani K, et al.	消化器外科	Efficacy of celecoxib as preemptive analgesia for patients undergoing laparoscopic inguinal hernia repair:a randomized trial.	Surgery Today. 2021;51(7):1118-1125	Original Article
75	Saito T,Fukami Y,Komatsu S, et al.	消化器外科	How to establish the bipolar forceps dissection method in robotic inguinal hernia repair.	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021;6(3):454-159	Original Article
76	Sugiyama K, Watanuki H, Okada M	Cardiac surgery	Response to revascularization-first strategy in managing acute type A aortic dissection with mesenteric malperfusion: Current evidence.	J Card Surg. 2021 Sep;36(9):3469.	Original Article

77	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y	Cardiac surgery	Effectiveness of Multidetector Computed Tomography in Prosthetic Valve Endocarditis.	Open Journal of Thoracic Surgery 2021;11:31-35.	Case report
78	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y	Cardiac surgery	Impact of direct carotid artery perfusion in acute type A aortic dissection involving the common carotid artery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Nov;69(11):1467-1475.	Original Article
79	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y	Cardiac surgery	Left Ovarian venous dilatation in patients who underwent cardiac surgery.	J Cardiol Cardiovasc Res. 2021;2(1):1-7.	Case report
80	Futamura Y, Watanuki H, Okada M	Cardiac surgery	The efficacy and renal protective effect of tolvaptan in chronic kidney disease patients after open-heart surgery.	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2021; 27: 317-321.	Original Article
81	Okada M, Watanuki H, Masato T	Cardiac surgery	Impact of tracheostomy timing on outcomes after cardiovascular surgery.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2021 Oct 7:S1053-0770(21)00884-3.	Original Article
82	Tochii M, Watanuki H, Sugiyama K	Cardiac surgery	Cardiac Surgery for active infective endocarditis of mitral valve after recent COVID-19 infection.	Clinics in Surgery 2022, Feb 02,3405.	Case report
83	Watanuki H, Futamura Y, Tochii M	Cardiac surgery	The Simple Technique of Sternal Closure Using An Absorbable Mesh Plate.	Heart Surg Forum. 2022 Feb 25;25(1):E147-E151.	Original Article
84	Sugiyama K, Mukai K, Watanabe A	Cardiac surgery	Feasibility of SAPIEN 3 20-mm transcatheter Heart valve implantation in aortic stenosis patients with a small aortic annulus.	J Transcatheter Valve Ther Vol. 3, No. 1 (2021) 7-13	Original Article

85	Yusuke Imaeda, Hiroyuki Ishibashi, Yuki Orimoto, et al.	血管外科	A case of effective balloon fenestration for localized aortic dissection complicated with acute renal and bilateral limb ischemia in a thoracoabdominal aortic aneurysm.	Annals of Vascular Disease, 14(2): 198-201, 2021	Case report
86	Yuki Orimoto, Hiroyuki Ishibashi, Yuki Maruyama, et al.	血管外科	The PETTICOAT-Snowshoe Technique Prevents Distal Stent Graft-Induced New Entry in Patients with Aortic Dissection.	Ann Vasc Surg 2022; 000: 1-40	Original Article
87	Takahiro Arima, Shun Otsuka, Hiroki Mitsuoka, et al.	血管外科	Site-specific mechanical properties of the human great saphenous vein: Cadaveric comparisons among the thigh, knee, and lower leg harvest sites	Plebology 2022 Jul;37(6):445-451	Original Article
88	Miyachi S, Nagano Y, Kawaguchi R, et al.	脳神経外科	Remote Surgery Using a Neuroendovascular Intervention Support Robot Equipped with a Sensing Function: Experimental Verification.	Asian J Neurosurg. 16(2):363-366, 2021	Original Article
89	Osuka K, Ohmichi Y, Ohmichi M, et al.	脳神経外科	Sequential Expression of Chemokines in Chronic Subdural Hematoma Fluids after Trepanation Surgery.	J Neurotrauma. 38(14):1979-1987, 2021	Original Article
90	Osuka K, Watanabe Y, Suzuki C, et al.	脳神経外科	Sequential expression of neutrophil chemoattractants in cerebrospinal fluid after subarachnoid hemorrhage.	J Neuroimmunol. 357:577610, 2021	Original Article
91	Ohshima T, Kawaguchi R, Matsuo N, et al.	脳血管内治療センター	Local Balloon-Assisted Navigation of a Microcatheter into an Aneurysm during Intracranial Aneurysmal Coiling: A Dunk Shot Technique.	Asian J Neurosurg. 16(2):384-386, 2021	Original Article

92	Ohshima T, Nagano Y, Miyachi S.	脳血管内治療センター	A Novel Technique of Microcatheter Shaping using Real Image Display for Endovascular Aneurysmal Coil Embolization.	Asian J Neurosurg. 16(3):645-647, 2021	Original Article
93	Ohshima T, Koiwai M, Matsuo N, et al.	脳血管内治療センター	A novel remote hands-on training for neuroendovascular-based treatment in the era of the COVID-19 pandemic.	Interv Neuroradiol. 2022 Jan. オンライン	Original Article
94	Iwami K, Fujii M, Nishio N, et al.	頭蓋底外科センター	Surgical Classification of Radical Temporal Bone Resection and Transcranial Tympanotomy: A Retrospective Study from the Neurosurgical Perspective.	World Neurosurg. 151: e192-e207, 2021	Original Article
95	Iwami K, Fujii M, Nishio N, et al.	頭蓋底外科センター	Skull Base Invasion Patterns of Malignant Head and Neck Tumors: A Neurosurgical Perspective.	J Neurol Surg B Skull Base. 82(Suppl 3): e120-e130, 2021	Original Article
96	Iwami K, Fujii M, Jinguji S, et al.	頭蓋底外科センター	Skull Base Reconstruction Using a Temporoparietal Galeal Flap in Simultaneous Transnasal and Transcranial Surgery for the Prevention of Carotid Blowout Syndrome: A Report of 3 Cases.	J Neurol Surg B Skull Base. 82(Suppl 3): e236-e242, 2021	Case report
97	Iwami K, Watanabe T, Yokota M, et al.	頭蓋底外科センター	Feasibility of underwater microvascular decompression for hemifacial spasm: a technical note.	Acta Neurochir. (Wien) 163(9):2435-2444, 2021	Original Article
98	Iwami K, Watanabe T, Osuka K,	頭蓋底外科センター	Combined Exoscopic and Endoscopic Technique for Craniofacial Resection.	Curr Oncol. 28(5):3945-3958, 2021	Original Article

99	Aoyama M, Hara M, Maejima R, et al.	脳神経外科	Endotracheal Tube Obstruction Experienced during an Anterior Cervical Discectomy and Fusion.	Asian J Neurosurg. 16(2):381-383, 2021	Case report
100	Kawaguchi R, Miyachi S, Ohshima T,	脳神経外科	Unruptured Paraclinoid Carotid Aneurysms Occur More Frequently in Younger Ages.	Neurointervention. 16(2):111-116, 2021	Original Article
101	Yamanashi Y, Ohmichi M, Ohmichi Y, et al.	整形外科	Efficacy of Methotrexate on Rat Knee Osteoarthritis Induced by Monosodium Iodoacetate.	J Inflamm Res. 2021 Jul 15;14:3247-3259.	Original Article
102	Yamanashi Y, Kato T, Akao M, et al.	整形外科	Meniscal Repair Using Fibrin Clots Made From Bone Marrow Blood Wrapped in a Polyglycolic Acid Sheet.	Arthrosc Tech. 2021 Oct 23;10(11):e2541-e2546.	Original Article
103	Shibata T, Takama H, Oshima Y	皮膚科	A case of adolescent striae distensae accompanied by ileitis.	J Dermatol. 2021 May;48(5):e219-e220.	Original Article
104	Majima T, Sassa N.他	泌尿器科	Organ cross- sensitization mechanisms in chronic diseases related to the genitourinary tract.	J Smooth Muscle Res.	Original Article
105	Tsuyoshi Majima, Yoshihi sa Matsukawa, Yas uhito Funahasi 他	泌尿器科	Urodynamic evaluation before and after to RARP to identify pre and intraoperative factors affecting postoperative continence	Neurourol Urodyn.	Original Article
106	Matsushita H, Shimizu S, Morita N, et al.	産科・婦人科	Effects of royal jelly on bone metabolism in postmenopausal women: a randomized, controlled study.	Climacteric. 2021 Apr; 24; 164-70	Original Article

107	Saitou T, Watanabe K, Kinoshita H, et al.	産科・婦人科	Hypoalbuminemia is related to endothelial dysfunction resulting from oxidative stress in parturients with preeclampsia	Nagoya J Med Sci. 2021 Nov; 83: 741-8	Original Article
108	Morimoto A, Shimazu M, Minamitani T, et al.	産科・婦人科	Lower abdominal pain during pregnancy due to small bowel perforation: a case of Crohn's disease requiring differentiation from obstetric disorders	Hypertension Research In Pregnancy 2022 Mar; 10: 52-6	Case report
109	HirokoTakatsu, KotaroTsuboi, MotohiroKamei	愛知医科大学病院眼科	Vascular Abnormalities May Progress in Branch Vein Occlusion Despite Resolution of Macular Edema	Ophthalmology Retina Volume 6, Issue 3, March 2022, Pages 252-254	Original Article
110	Valencia MR, Miyazaki H, Ito M, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Radiological findings of orbital blowout fractures: a review.	Orbit. 2021 Apr;40:98-109	Review
111	Vaidya A, Kakizaki H, Takahashi Y.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in Field of Binocular Single Vision and Ocular Deviation Angle After Balanced Orbital Decompression in Thyroid Eye Disease	Ophthalmic Plast Reconstr Surg. 2021 Mar-Apr;37:154-160	Original Article
112	Lee PAL, Vaidya A, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Amyloidosis in the Bulbar Conjunctiva Following Transconjunctival Ptosis Surgery.	J Craniofac Surg. 2021 May;32:e280-e281.	Case report
113	Takahashi Y, Ohmichi Y, Lee PAL, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Muscle Spindles in the Levator Palpebrae Superioris Muscle of Human Adults.	J Craniofac Surg. 2021 Jun;32:1532-1534.	Original Article
114	Takahashi Y, Vaidya A, Lee PAL, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Disabling muscle of Riolan: A novel concept of orbicularis oculi myectomy for refractory benign essential blepharospasm.	Eur J Ophthalmol. 2021 Nov;31:3411-3417.	Original Article

115	Lee PAL, Kono S, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Re: "In Vivo Morphology of Nasolacrimal Duct Opening Into the Inferior Meatus".	Ophthalmic Plast Reconstr Surg. 2021 Mar-Apr;37:189.	Letter
116	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Re: punctal dilatation and non-incisional canalicular curettage in the management of infectious canaliculitis.	Orbit. 2021 Aug;40:354.	Letter
117	Ann L Lee P, Kakizaki H, Takahashi Y.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Bilateral Epibulbar Dermolipomas in a Patient With Goldenhar Syndrome.	J Craniofac Surg. 2021 Mar-Apr;32:e217-e218.	Case report
118	Lee PAL, Kono S, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Conjunctival Epithelial Inclusion Cyst following Evisceration with Primary Orbital Implantation.	Case Rep Ophthalmol. 2021 May;12:369-372.	Case report
119	Lee PAL, Vaidya A, Kono S, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Extraocular muscle expansion after deep lateral orbital wall decompression: influence on proptosis reduction and its predictive factors.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2021 Nov;259:3427-3435.	Original Article
120	Kono S, Kakizaki H, Lee PAL, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Direct Ultrasonic Aspiration for Orbito-Temporal Neurofibromas.	Case Rep Ophthalmol. 2021 Jun;12:497-500.	Case report
121	Kono S, Vaidya A, Miyazaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Anatomical implication of less occurrence of inferior oblique muscle entrapment in orbital floor trapdoor fracture.	Surg Radiol Anat. 2021 Nov;43:1823-1828.	Original Article
122	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in Eyelid Pressure and Dry Eye Status after Orbital Decompression in Thyroid Eye Disease.	J Clin Med. 2021 Aug;10:3687.	Original Article
123	Takahashi Y, Vaidya A, Yo K, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Comparison of degree of medial rectus muscle misalignment after medial orbital wall decompression with or without periosteal flap.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2022 Mar;260:1025-1031.	Original Article

124	Yokoyama T, Vaidya A, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Granular Cell Tumor in the Medial Rectus Muscle: A Case Report.	Case Rep Ophthalmol. 2022 Jan;13:33-36.	Case report
125	Yokoyama T, Vaidya A, Kakizaki H, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital metastasis as the primary manifestation of pancreatic carcinoma: a case report and literature review.	BMC Ophthalmol. 2022 Mar;22:116.	Case report
126	Takahashi Y, Kono S, Vaidya A, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Optic Neuropathy Caused by a Perineural Sarcoid Lesion.	Cureus. 2022 Feb;14:e21966.	Case report
127	Uchida Y, Mise K, Suzuki D et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A Multi-Institutional Study of Older Hearing Aids Beginners-A Prospective Single-Arm Observation on Executive Function and Social Interaction.	J Am Med Dir Assoc 2021 Jun22(6):1168-74	Original Article
128	Uchida Y, Nishita Y, Otsuka R et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Aging Brain and Hearing: A Mini-Review	Front Aging Neurosci 2022 Jan 13;13:791604	Review
129	Mayako Y, Tsuneo I, Shuji K, et al.	放射線科	Distribution of scatter radiation by C-arm cone-beam computed tomography in angiographic suite: measurement of doses and effectiveness of protection devices	Nagoya J. Med. Sci. 2021 83:277-286	Original Article
130	Ito M, Yoshioka Y, Takase Y, et al.	放射線科	Stereotactic body radiation therapy for Japanese patients with localized prostate cancer: 2-year results and predictive factors for acute genitourinary toxicities	Jpn J Clin Oncol. 2021 1;51(8):1253-1260.	Original Article

131	Ito M, Sasamura K, Takase Y, et al.	放射線科	Comparison of Physician-recorded Toxicities and Patient-reported Outcomes of Five Different Radiotherapy Methods for Prostate Cancer	Anticancer Res. 2021 41:2523-2531	Original Article
132	Okada H, Ito M, Minami Y, et al.	放射線科	Automatic one-click planning for hippocampal-avoidance whole-brain irradiation in RayStation	Med Dosim. 2022 Spring;47(1):98-102.	Original Article
133	Masatoshi Okumura, Tomonori Ishigaki, Kazunao Mori et al.	麻酔科	Personality traits affect critical care nursing competence: A multicentre cross-sectional study.	Intensive and Critical Care Nursing, 2021 Aug; 103128	Original Article
134	Kazunao Mori, Yoko Tsukamoto, Satoshi Makino et al.	麻酔科	Effect of intensive care provided by nurse practitioners for postoperative patients: A retrospective observational before-and-after	PLoS ONE. 2022 Jan(オンライン); 21:17(1)e0262605	Original Article
135	Sayuri Yamamoto, Yurika Kawamura, Kazuhiro Yamamoto, 他	総合診療医学講座	Internet Survey of Japanese Patients With Chronic Constipation: Focus on Correlations Between Sleep Quality, Symptom Severity, and Quality of Life	J Neurogastroenterol Motil 2021; 27(4): 602-611	Original Article
136	Takaaki Kishino	救急診療部	Usefulness of serum procalcitonin for necrotizing fasciitis as an early diagnostic tool	J Infect Chemother. 2021 Jun;27(6):787-793	Original Article
137	Hisatake Mori	救命救急科	Neutrophil extracellular traps are associated with altered human pulmonary artery endothelial barrier function	European Journal of Inflammation. 2021; 19: 1-10	Original Article

138	Kato H, Hagihara M, Shibata Y, et al	感染症科	Comparison of mortality between echinocandins and polyenes for an initial treatment of candidemia: a systematic review and meta-analysis	Volume 27, Issue 11, November 2021, Pages 1562-1570	Original Article
139	Tadashi Ariyoshi, Mao Hagihara, Susumu Tomono et al	感染症科	Clostridium butyricum MIYAIRI 588 Modifies Bacterial Composition under Antibiotic-Induced Dysbiosis for the Activation of Interactions via Lipid Metabolism between the Gut Microbiome and the Host	Biomedicines . 2021 Aug 22;9(8):1065.	Original Article
140	Hideo Kato, Mao Hagihara, Masami Okudaira et al	感染症科	Systematic review and meta-analysis to explore optimal therapeutic range of vancomycin trough level for infected paediatric patients with Gram-positive pathogens to reduce mortality and nephrotoxicity risk	Int J Antimicrob Agents . 2021 Aug;58(2):106393	Original Article
141	Nobuhiro Asai, Hiroyuki Suematsu, Wataru Ohashi et al	感染症科	Ceftriaxone versus tazobactam/piperacillin and carbapenems in the treatment of aspiration pneumonia: A propensity score matching analysis	J Infect Chemother . 2021 Oct;27(10):1465- 1470	Original Article
142	Nobuhiro Asai, Daisuke Sakanashi, Wataru Ohashi et al	感染症科	Efficacy and validity of automated quantitative chemiluminescent enzyme immunoassay for SARS-CoV-2 antigen test from saliva specimen in the diagnosis of COVID-19	J Infect Chemother . 2021 Jul;27(7):1039- 1042	Original Article

143	Yuichi Shibata, Mao Hagihara, Hideo Kato, et al	感染症科	Retrospective Study of the Frequency of TMP/SMX Prophylaxis Use and the Incidence of Pneumocystis Pneumonia Following Systemic Corticosteroid Therapy in Intraocular Inflammatory Disease Patients	Jpn J Pharm Health Care Sci 47(5) 272-278 (2021)	Others
144	Hideo Kato, Mao Hagihara, Nobuhiro Asai et al	感染症科	A systematic review and meta-analysis of myelosuppression in pediatric patients treated with linezolid for Gram-positive bacterial infections	J Infect Chemother . 2021 Aug;27(8):1143-1150	Original Article
145	Nobuhiro Asai, Wataru Ohashi, Takaaki Kishino et al	感染症科	The combined score of quick SOFA and the Charlson Comorbidity Index could be a poor prognostic indicator for in-hospital mortality among patients with necrotizing fasciitis	J Infect Chemother . 2021 Jun;27(6):919-923.	Others
146	Hideo Kato, Mao Hagihara, Nobuhiro Asai et al	感染症科	Meta-analysis of fluoroquinolones versus macrolides for treatment of Legionella pneumonia	Journal of Infection and Chemotherapy Volume 27, Issue 3, March 2021, Pages 424-433	Original Article
147	Nobuhiro Asai, Daisuke Sakanashi, Wataru Ohashi	感染症科	Efficacy and validity of automated quantitative chemiluminescent enzyme immunoassay for SARS-CoV-2 antigen test from saliva specimen in the diagnosis of COVID-19	J Infect Chemother . 2021 Jul;27(7):1039-1042	Original Article
148	Nobuhiro Asai, Hiroshige Mikamo	感染症科	COVID-19 disease severity is linked to host immunity as well as lung and gut dysbiosis: a narrative review. J Glob Antimicrob Resist	J Glob Antimicrob Resist . 2021 Dec;27:282-283	Others

149	Hideo Kato, Mao Hagihara, Nobuhiro Asa et al	感染症科	A systematic review and meta-analysis of decontamination methods to prevent hospital environmental contamination and transmission of <i>Clostridioides difficile</i>	Anaerobe Volume 73, February 2022, 102478	Original Article
150	Tadashi Ariyoshi, Mao Hagihara, Motomichi Takahashi et al	感染症科	Effect of <i>Clostridium butyricum</i> on Gastrointestinal Infections	Biomedicines. 2022 Feb; 10(2): 483	Review
151	Naomi Sugimoto, Yuka Yamagishi, Hiroshige Mikamo	感染症科	Effect of empagliflozin on <i>Candida glabrata</i> adhesion to vaginal epithelial cells	Medical Mycology Journal 2022 年 63 卷 2 号 p. 43-47	Original Article
152	Jun Hirai, Tessei Kuruma, Daisuke Sakanashi et al	感染症科	Lemierre Syndrome Due to <i>Dialister pneumosintes</i> : A Case Report. Infect Drug Resist	Infect Drug Resist . 2022 May 31;15:2763-2771	Case report
153	Takumi Umemura, Mao Hagihara, Takeshi Mori et al	感染症科	In vitro efficacy of antibiotic combinations with carbapenems and other agents against anaerobic bacteria	Antibiotics (Basel) . 2022 Feb 22;11(3):292	Original Article
154	Nobuhiro Asai, Daisuke Sakanashi, Hiroyuki Suematsu et al	感染症科	To what degree could clinical trials in evidence based medicine reflect reality in the treatment of candidemia ?	J Microbiol Immunol Infect . 2022 Feb;55(1):147-153	Original Article
155	Nobuhiro Asai, Akiko Nakamura, Daisuke Sakanashi et al	感染症科	Comparative study of SmartAmp assay and reverse transcription-polymerase chain reaction by saliva specimen for the diagnosing COVID-19	J Infect Chemother . 2022 Jan;28(1):120-123	Others

156	Hideo Kato, Mao Hagihara, Nobuhiro Asai et al	感染症科	A Systematic Review and Meta-Analysis of Efficacy and Safety of Azithromycin Versus Moxifloxacin for the Initial Treatment of Mycoplasma genitalium Infection	Antibiotics (Basel) . 2022 Mar 7;11(3):353	Original Article
157	Nobuhiro Asai, Wataru Ohashi, Hiroki Watanabe et al	感染症科	Efficacy and validity of guideline-concordant treatment according to the JRS guidelines for the managements of pneumonia in adults updated in 2017 for nursing and healthcare-associated pneumonia. A propensity-matching score analysis.	J Infect Chemother . 2022 Jan;28(1):24-28	Original Article
158	Asai N, Shibata Y, Sakanashi D et al	感染症科	A large gap in patients' characteristics and outcomes between the real-world and clinical trial settings in community-acquired pneumonia and healthcare-associated pneumonia	J. Clin. Med. 2022, 11(2), 297	Original Article
159	Tsuzuki T.	病理診断科	Re: Editorial Comment on Intraoperative pathology consultation during urological surgery: Impact on final margin status and pitfalls of frozen section diagnosis	Pathol Int. 2021 Sep;71(9):581.	Others
160	Taniguchi N, Takahara T, Ito T, et al	病理診断科	Clinicopathologic analysis of malignant or premalignant cutaneous neoplasms in Japanese kidney transplant recipients.	Int J Clin Exp 2021 Dec 15;14(12):1138-1147. eCollection 2021. オンライン	Others

161	Satou A, Banno S, Kohno K, et al	病理診断科	Primary cutaneous methotrexate- associated B-cell lymphoproliferative disorders other than EBV-positive mucocutaneous ulcer: clinical, pathological, and immunophenotypic features	Pathology. 2021 Aug;53(5):595-601.	Others
162	Tsuyuki T, Satou A, Takahara T, et al	病理診断科	Prevalence and Clinicopathologic Features of Intestinal Perforation Caused by Segmental Absence of the Intestinal Musculature in Adults	Am J Surg Pathol. 2021 Jun1;45(6):803-811.	Others
163	Satou A, Tabata T, Suzuki Y, et al	病理診断科	Nodal EBV-positive polymorphic B cell lymphoproliferative disorder with plasma cell differentiation: clinicopathological analysis of five cases	Virchows Arch. 2021.May;478(5):969-976.	Others
164	Takahara T, Satou A, Ishikawa E,et al	病理診断科	Clinicopathological analysis of neoplastic PD-L1-positive EBV + diffuse large B cell lymphoma, not otherwise specified, in a Japanese cohort	Virchows Arch. 2021Mar;478(3):541-552.	Others
165	Satou A, Nakamura S.	病理診断科	EBV-positive B-cell lymphomas and lymphoproliferative disorders: Review from the perspective of immune escape and immunodeficiency	Cancer Med. 2021 Oct;10(19):6777-6785.	Review
166	Takahara T, Tsuyuki T, Satou A, et al	病理診断科	TGFB1 mRNA expression is associated with poor prognosis and specific features of inflammation in ccRCC.	Virchows Arch. 2022 Mar;480(3):635-643.	Others
167	Tomio Hayashi, Kazuhiro Yoshikawa, Susumu Suzuki	歯科口腔外科	Tumor-infiltrating FoxP3+ T cells are associated with poor prognosis in oral squamous cell carcinoma.	Clinical and Experimental Dental Research , 8(1) : 152-159 , 2022.2	Original Article

168	Remi Matsuyama, Keisuke Maeda, Yosuke Yamanaka,	歯科口腔外科	Evaluation of skeletal muscle mass using prediction formulas at the level of the 12th thoracic vertebra.	Nutrition, 2022 Jan;93:111475. doi: 10.1016/j.nut.2021.111475. Epub 2021 Sep 5.	Original Article
169	Hidefumi Kato, Megumi Hayashi, Wataru Ohashi, et al.	輸血部	A Retrospective Observational Study of Adverse Reactions Associated With Intravenous Immunoglobulin Infusion	Front Immunol 2021.Sep(オンライン)	Original Article
170	Arai YP, Nishihara M, Ikemoto T, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Thoracic Paravertebral Neurolysis for the Treatment of Intractable Chest Wall Pain Caused by Neoplasms: A Case Series	Pain Med. 2021.9; 22(9): 2133-2135.	Original Article
171	Shiro Y, Arai YC, Ikemoto T, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Correlation Between Gut Microbiome Composition and Acute Pain Perception in Young Healthy Male Subjects.	Pain Med. 2021.7; 22(7): 1522-1531.	Original Article
172	Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study.	PLoS One. 2021.2; 16(2): e0247064.	Original Article
173	Inagaki H, Ushida T.	疼痛医学講座	The effect of playback of 22-kHz and 50-kHz ultrasonic vocalizations on rat behaviors assessed with a modified open-field test.	Physiol Behav. 2021.2; 229: 113251.	Original Article
174	Inagaki H, Ushida T.	疼痛医学講座	The acoustic startle reflex as a tool for assessment of odor environment effects on affective states in laboratory mice.	Exp Anim. 2021.2; 70(1): 119-125.	Original Article
175	Tanaka S, Nishigami T, Wand BM, et al.	疼痛医学講座	Identifying participants with knee osteoarthritis likely to benefit from physical therapy education and exercise: A hypothesis-generating study.	Eur J Pain. 2021.2; 25(2): 485-496.	Original Article

176	Tanaka S, Nishigami T, Ohishi K, et al.	疼痛医学講座	"But it feels swollen!": the frequency and clinical characteristics of people with knee osteoarthritis who report subjective knee swelling in the absence of objective swelling.	Pain Rep. 2021.11; 6(4): e971.	Original Article
177	Habuchi H, Izumi M, Dan J, et al.	疼痛医学講座	Bone marrow derived mast cells injected into the osteoarthritic knee joints of mice induced by sodium monoiodoacetate enhanced spontaneous pain through activation of PAR2 and action of extracellular ATP.	PLoS One. 2021.06; 16(6): e0252590.	Original Article
178	Takeshita S, Kakita H, Toriuchi K	周産期母子医療センター	Insufficient thrombopoietin due to hepatic dysmature results in thrombocytopenia in small-for- gestational-age rats.	Br J Haematol 2021; 192: e105-8.	Letter
179	Ichimura S, Kakita H, Asai S	周産期母子医療センター	Acetaminophen elevates unbound bilirubin levels by the glucose oxidase- peroxidase method.	Pediatr Int 2021; 63: 1069-74	Original Article
180	Katano T, Tsuzuki T, Numanami H,et al	臨床腫瘍センター	A case of renal cell carcinoma with microscopic pulmonary tumor embolism proven by surgical lung biopsy.	Respiratory Medicine Case Reports ,39, 101716, 2022	Case report
181	Banno S, Yamaguchi E, Iwagaitu S,et al	臨床腫瘍センター	Long-term favorable outcome of the fibrocavitary form of pulmonary Mycobacterium avium complex disease with concomitant abatacept monotherapy in a case of rheumatoid arthritis.	Modern Rheumatology Case Reports,6, 1 -5, 2022.	Case report

182	Kajikawa S, Suzuki K, Matsunaga N, et al	臨床腫瘍センター	Bronchial carcinoid tumor managed with bronchial artery embolization before endobronchial resection: A case report.	Thoracic Cancer, 12, 2134-7, 2021	Case report
183	Katano K, Murao H, Kato T, et al	臨床腫瘍センター	A case of acute inhalation injury caused by premeditated chlorine gas exposure.	Respirol Case Reports 9, e00743, 2021	Case report

計 183 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	深見保之、大澤高陽、齊藤卓也、他。	消化器外科	肝・胆道系症候群—その他の肝・胆道系疾患を含めて—肝外胆道編 肝外胆管(胆管、胆嚢管、総胆管) 胆管神経内分泌腫瘍・癌	別冊日本臨牀 領域別症候群シリーズ 2021;15(別冊): 44-47	Original Article
2	花澤隆明、小松俊一郎、松村卓樹、ほか。	消化器外科	腹腔鏡下 Hartmann reversal 術後に発生した外側大腿皮神経障害の1例。	外科 2021;83(9):1030-1034	Case report
3	金子健一朗、加藤翔子、松下希美、ほか。	消化器外科	特集 膵と胆道の先天性形成異常～発生から臨床まで～先天性胆道拡張症の病態と臨床	胆と膵 2021;42(10):959-963	Original Article
4	加藤翔子、金子健一朗、福山貴大、ほか。	消化器外科	先天性前胸部皮下皮様瘻孔—自験例2例の報告、および既報告50例の検討—	日本小児外科学会雑誌 2021;57(6):1008-1011	Original Article

5	齊藤卓也、深見保之、小松俊一郎、ほか.	消化器外科	特集 消化器外科ロボット支援手術の導入と手術教育 手術教育からみたロボット支援下鼠径ヘルニア修復術の役割.	手術 2021;76(1):33-39	Original Article
6	深見保之、大澤高陽、齊藤卓也、ほか.	消化器外科	特集 肝胆膵外科手術における術前・術後ドレナージ 胆管切除を伴う肝切除	手術 2021;76(3):253-257	Original Article
7	深見保之、佐野力.	消化器外科	外科手術手技の実際 コツと工夫 胆道がんに対する肝右三区域切除術.	胆膵OncologyForum 2021;2(2):22-26	Original Article
8	Okamoto T, Ikemoto T, Miyagawa H, et al.	整形外科	The Cut-off Value of Physical Activity for Undergoing Total Knee Arthroplasty in Patients with Knee Osteoarthritis.	Healthcare. 2021 Aug 19;9(8):1063.	Original Article
9	渡辺 大輔	皮膚科	【ワクチン】ワクチンによる帯状疱疹予防	現代医学68巻2号 Page37-41	Original Article
10	渡辺 大輔	皮膚科	再発性性器ヘルペス患者の治療実態に関するアンケート調査 患者ニーズと医師(皮膚科、婦人科および泌尿器科)の診療実態	日本臨床皮膚科医会雑誌 38巻3号 Page445-453	Original Article
11	渡辺 大輔	皮膚科	【性感染症】性器ヘルペス感染症の診断と管理	医学と薬学(78巻9号 Page1053-1058	Original Article
12	水本 強一, 寺尾春香, 瓶井資弘	愛知医科大学病院眼科	網膜静脈分枝閉塞症における光干渉断層血管撮影による血管密度の併行精度の検討	日本視能訓練士協会誌 (0387-5172)50巻 Page87-95(2021.12)	Original Article
13	柿崎裕彦	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 眼瞼下垂	日本医事新報 2022;5108:46	Others
14	成田晶子、鈴木 耕次郎	放射線科	【地力が伸ばせる腹部画像診断:消化器・肝・胆・膵】胆道(解説/特集)	臨床画像 2021 37:61-78	Others

15	北川 晃, 岡田 浩章, 成田 晶子, 他	放射線科	「脈管異常のアップデート 新ISSVA分類で深める病態の理解」高流速型脈管奇形に対する血管塞栓術	画像診断 2021 41:1253-1260	Others
16	伊藤誠, 鈴木 淳司, 奥田 隆仁, 他	放射線科	前立腺がんに対する「CyberKnife」による超寡分割照射の実際	INNERVISION. 2021;36(11):60-63.	Others
17	畠山 登	麻酔科	全身麻酔+神経ブロックで麻酔管理し、ICUできめ細やかな術後疼痛管理を	Lisa. 2021 Apr; 28(4):350-352	Review
18	橋本 篤	麻酔科	手術室における体温管理の実践 周術期の体温低下とその不利益	手術看護エキスパート. 2021 Sep; 15(3):41-44	Review
19	橋本 篤	麻酔科	手術室における体温管理の実践 全身麻酔により低体温が生じる病態生理	手術看護エキスパート. 2021 Feb; 15(4):56-59	Review
20	森 一直	麻酔科	周術期管理のトレンド	手術看護エキスパート. 2021 Feb; 15(4):91-94	Review
21	橋本 篤	麻酔科	手術室における体温管理の実践 体温測定と加温の方法	手術看護エキスパート. 2022 Jan; 15(5):85-89	Review
22	鏡味 真実, 奥村 将年, 森 一直 他	麻酔科	結腸縫合不全術後の肺血症性ショックに合併したビタミンB1欠乏症	日本救急医学会中部地方会誌. 2021 Dec; 17:21-25	Case report
23	武山 直志	特命教授	新型コロナウイルス感染症拡大後の救命救急センターのこれまでと現在の状況及び今後の動向について	名古屋医報 2021; 1475: 2-4	Original Article
24	武山 直志	特命教授	敗血症性ショックと免疫学的治療	救急集中治療 2021; 33:1031-1037	Original Article
25	苛原 隆之	准教授(特任)	トリカブト中毒に対し血液吸着(direct hemoperfusion: DHP)が有効であった1例	日救急医学会誌. 2021; 32: 471-6	Case report

26	Tsuzuki T.	病理診断科	Editorial Comment to Prognostic significance of tertiary Gleason pattern in the contemporary era of Gleason grade grouping: A narrative review.	Int J Urol. 2021 Jun;28(6):621-622.	Others
27	Tsuyuki Y, Ishikawa E, Kohno K,	病理診断科	Expression of programmed cell death ligand-1 by immune cells in the microenvironment is a favorable prognostic factor for primary diffuse large B-cell lymphoma of the central nervous system.	Neuropathology. 2021 Apr;41(2):99-108.	Others
28	Tsuyuki Y, Kohno K, Inagaki Y,	病理診断科	Lymphocyte-depleted classic Hodgkin lymphoma with primary extranodal disease: Two cases that highlight the combination of immunodeficiency and immune escape in the pathogenesis.	J Clin Exp Hematop. 2021;61(3):173-179.	Case report
29	小川 実加, 鈴木 敦夫, 鈴木 伸明, 他	中央臨床検査部	血友病診療における合成基質法	日本血栓止血学会誌 2022.2;33(1);75-79	Review
30	榎本 めぐみ, 小野内 健太, 大坪 弘明, 他	中央臨床検査部	特殊染色を極める-正しい手法・評価とピットフォール エステラーゼ染色	日本検査血液学会誌 2021.11;22(3);434-440	Review
31	大坪 弘明, 中山 享之, 小川 実加, 他	中央臨床検査部	慢性DICと凝固第XIII因子の関連について	日本検査血液学会雑誌 2021.8;22; S138	Others
32	小野内 健太, 大坪 弘明, 寺田 達夫, 他	中央臨床検査部	血液形態検査におけるCella VisionDM96を用いた内部精度管理の有用性	日本検査血液学会雑誌 2021.8;22; S167	Others
33	柴田 由加, 姫野 龍仁, 西田 泰之, 他	中央臨床検査部	神経障害(臨床) 糖尿病性多発神経障害の診断における各種QTc補正式の有用性の比較	糖尿病合併症 2021.9;35Suppl;205	Others

34	中山 享之、 小川 実加	中央臨床検査部	慢性DIC患者におけるXIII因子活性の測定	日本臨床検査医学会誌 2021.10;69巻補冊;125	Others
35	柴田 由加、 中楚 友一朗、 谷 浩也、他	中央臨床検査部	電気生理検査時の刺激に対して痛覚過敏を呈する足部痛患者群の特徴に関する検討	末梢神経 2021.12;32(2);314	Others
36	石山 和樹、 中山 享之、 丹羽 玲子、 他	輸血部	自己のI抗原が一過性に検出されず診断に苦慮した自己抗I陽性の寒冷凝集素症	日本輸血細胞治療学会誌 2021.9;67(4):516-521	Original Article
37	加藤栄史	輸血部	輸血副反応を見据えたIC取得	日本輸血細胞治療学会誌 2021.9;67(5):巻末39	Others
38	高 四強、山 口 尊聖、田 中 里美、他	輸血部	新生児集中治療部門(NICU)入院患児の輸血関連業務の実態	日本輸血細胞治療学会誌 2021.5;67(2):296	Others
39	高 四強、山 口 尊聖、田 中 里美、他	輸血部	新生児集中治療部門(NICU)入院患児の輸血検査結果の解析	日本輸血細胞治療学会誌 2021.5;67(2):295	Others
40	林 恵美、丹 羽 玲子、他	輸血部	愛知県下4施設におけるABO不適合腎移植時の抗A抗B抗体価測定方法の検討	日本輸血細胞治療学会誌 2021.5;67(2):285	Others
41	加藤栄史	輸血部	コロナ禍における試験制度の変遷	日本輸血細胞治療学会誌 2021.5;67(2):26	Others
42	Naoharu Mori, Keisuke Maeda, Yousuke Yamanaka 他	緩和ケアセンター	Prognostic role of low muscle mass and strength in palliative care patients with incurable cancer: a retrospective study	JCSM Clinical Reports 2021 6(3) (オンライン)	Original Article
43	Naoharu Mori, Keisuke Maeda, Yasuyuki Fukami 他	緩和ケアセンター	High SARC-F score predicts poor survival of patients with cancer receiving palliative care	Supportive Care in Cancer 2022 Jan; 30: 4065-72	Original Article
44	Yuria Ishida, Akio Shimizu, Keisuke Maeda 他	栄養部	A Score to Predict Home Discharge for Patients With Stroke in Rehabilitation Units.	Journal of the American Medical Directors Association 2022 Mar; 23: 1585-6	Original Article

45	福沢嘉孝,三浦裕次,溝口哲弘他	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	酢酸亜鉛水和物錠の補充投与継続が著効を呈した味覚障害の一例	学会誌 JAPAN(Web)3(Supplement 1)	Case report	計 45 件
----	-----------------	------------------------	-------------------------------	----------------------------------	-------------	--------

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査業務手順書（委員向け） 総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長の責務，医学部長等の責務，倫理委員会の役割 ・ 責務，専門委員会の役割・責務 倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け） 基本的事項，研究者等の責務，研究の適正な実施等，インフォームド・コンセント等，研究により得られた結果等の取り扱い，研究の信頼性確保，重篤な有害事象への対応，個人情報等及び匿名加工情報	
倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 1 利益相反委員会規程：利益相反を審査し，適切に管理・検討するための委員会規程 2 利益相反規程：利益相反の管理に関する規程	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>1 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について（医学系指針及びゲノム指針からの主な変更点）」</p> <p>講師：渡邊大輔教授（医学部倫理委員会委員長）</p> <p>開催日：令和3年6月23日</p> <p>2 「研究倫理について」</p> <p>講師：渡邊大輔教授（医学部倫理委員会委員長）</p> <p>開催日：令和4年3月23日</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

愛知医科大学病院内科専門医プログラム 愛知医科大学小児科研修医(専攻医)プログラム 愛知医科大学皮膚科研修プログラム 愛知医科大学精神科領域専門医研修プログラム 愛知医科大学外科専門研修プログラム 愛知医科大学整形外科専門研修プログラム 愛知医科大学産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム 愛知医科大学眼科専門研修プログラム 愛知医科大学病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム 愛知医科大学泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム 脳神経外科専門研修愛知医科大学プログラム 愛知医科大学病院放射線科専門研修プログラム 愛知医科大学病院麻酔科専門研修プログラム 愛知医科大学医学部病理専門研修プログラム 愛知医科大学臨床検査専門研修プログラム 愛知医科大学救急専門医育成プログラム 愛知医科大学形成外科専門研修プログラム 愛知医科大学リハビリテーション科専門研修プログラム 愛知医科大学総合診療専門医プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	129 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	37年	消化管内科,内視鏡センター
米田政志	内科	教授	39年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	33年	循環器内科
伊藤 理	内科	教授	28年	呼吸器・アレルギー内科
高木潤子	内科	教授	28年	内分泌・代謝内科
道勇 学	内科	教授	37年	神経内科,脳卒中センター
伊藤恭彦	内科	教授	40年	腎臓・リウマチ膠原病内科,総合腎センター
高見昭良	内科	教授	31年	血液内科,造血細胞移植センター
神谷英紀	内科	教授	27年	糖尿病内科,糖尿病センター
兼本浩祐	精神科,神経科	教授	39年	精神神経科,こころのケアセンター,てんかんセンター
奥村彰久	小児科	教授	33年	小児科
佐野 力	外科	教授	36年	消化器外科,腹部ヘルニアセンター
松山克彦	心臓血管外科	教授	31年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	40年	血管外科
福井高幸	呼吸器外科	教授	24年	呼吸科外科
中野正吾	外科	教授	31年	乳腺・内分泌外科

小林孝彰	外科	教授	37年	腎移植外科
宮地 茂	脳神経外科	教授	39年	脳神経外科,脳血管内 治療センター
出家正隆	整形外科	教授	34年	整形外科,人工関節セ ンター,スポーツ医科 学センター
渡邊大輔	皮膚科	教授	29年	皮膚科
佐々直人	泌尿器科	教授	31年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	38年	産科・婦人科,周産期 母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	34年	眼科
柿崎裕彦	眼科	教授	26年	眼形成・眼窩・涙道外 科
藤本保志	耳鼻咽喉科	教授	32年	耳鼻咽喉科・頭頸部外 科,頭蓋底外科センタ ー,総合物流センター
鈴木耕次郎	放射線科	教授	26年	放射線科,中央放射線 部
藤田義人	麻酔科	教授	34年	麻酔科,周術期集中治 療部
前川正人	内科	教授	37年	総合診療科,プライマ リーケアセンター
古川洋志	形成外科	教授	31年	形成外科
武山直志	救急科	教授	42年	救命救急科,救命救急 センター
木村伸也	リハビリテーシ ョン科	教授	40年	リハビリテーション 科,リハビリテーショ ン部
篠邊龍二郎	内科	教授	32年	睡眠科,睡眠科医療セ ンター
三鴨廣繁	内科	教授	33年	感染症科,感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	33年	病理診断科,病院病理 部
牛田享宏	整形外科	教授	31年	疼痛緩和外科,いたみ センター
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	38年	歯科口腔外科
中山享之	内科	教授	29年	中央臨床検査部
伊藤 洋	麻酔科	教授	28年	中央手術部,中央材料 部
加納秀記	救急科	教授	32年	救急診療部
加藤栄史	内科	教授	38年	輸血部,細胞治療セン ター
矢野智紀	外科	教授	32年	臨床工学部,臨床腫瘍 センター(外科部門)
山田恭聖	小児科	教授	28年	周産期母子医療セン ター
森 直治	外科	教授	33年	栄養部,緩和ケアセン ター,栄養治療支援セ ンター
三嶋秀行	外科	教授	38年	臨床腫瘍センター,臨

久保昭仁	内科	教授	35年	床研究支援センター 臨床腫瘍センター(内科部門),ゲノム医療センター
原 政人	脳神経外科	教授	34年	脊椎脊髄センター
丹羽淳一	内科	教授	31年	医療福祉相談部
福沢嘉孝	内科	教授	38年	先制・統合医療包括センター
齋木英資	内科	教授	33年	パーキンソン病総合治療センター
佐々木誠人	内科	教授	33年	炎症性腸疾患センター

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 深津 博	
管理担当者氏名	医事課 高橋功 病院管理課 永田大介 地域医療連携課 矢内亨扶 医療情報管理課 矢内亨扶 薬剤部 大西正文 医療安全管理室 杉本郁夫 感染管理室 三嶋廣繁 臨床工学部 矢野智紀	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	病院管理課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央カルテ室
		看護記録	中央カルテ室
		検査所見記録	中央カルテ室
		エックス線写真	サーバー
		紹介状	中央カルテ室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央カルテ室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	医療情報管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

外来カルテ・入院カルテとともに、電子カルテとなっている。
病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。
診療録の院外持出しは認めない。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 市川光生
閲覧担当者氏名	病院管理課長 永田大介
閲覧の求めに応じる場所	・会議室又は諸記録閲覧室
閲覧の手続の概要 申し出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための基本的な考え方 2. 医療安全管理責任者の設置 3. 安全管理の体制確保のための委員会 4. 医療安全管理室の設置 5. 医療安全管理者の設置 6. セーフティマネージャーの設置 7. 患者相談窓口の設置 8. 医薬品安全管理責任者等の設置 9. 医療機器安全管理責任者等の設置 10. 医療放射線安全管理責任者等の設置 11. 医療事故発生時の対応方法等 12. 安全管理のための職員研修 13. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 14. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 	
医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること 2. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること 3. 2の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること 4. 3の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること 5. 入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 6. 5の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること 7. 医療の安全管理の情報交換に関すること 8. 医療の安全管理のための教育・研修に関すること 9. その他医療の安全管理に関すること 	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年44回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全講演会 (2回) 2. 医薬品・医療機器安全講演会 (3回) 3. A E Dを使用した心肺蘇生法 (8回) 4. エコーを使用したC Vカテーテル挿入法 (9回) 5. P I C C 研修 (4回) 6. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」 (1回) 7. 新規採用医師ガイダンス (1回) (指針・マニュアル等の研修) 8. 中途採用職員（看護師除く）ガイダンス (11回) (指針・マニュアル等の研修) 9. 中途採用看護師ガイダンス (4回) (指針・マニュアル等の研修) 10. 新規採用職員ガイダンス (1回) (指針・マニュアル等の研修) 	

医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 医療安全管理マニュアルの改正
 2. 患者死亡時の院内患者死亡報告書による死因等についての検証
 3. C Vライセンス制度化

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染のための委員会及び感染対策関連組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 感染の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>毎月1回第2火曜日に定例開催し、次に掲げる事項の審議、報告を実施 感染予防対策の確立に関すること 感染予防の実施、監視及び指導に関すること 感染予防の教育に関すること 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること 院内感染対策のための指針の策定及び変更 その他感染予防に関すること</p>	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年18回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>感染予防に関する講演会（年2回） キャリア・ディベロップメント講座（年7回） 愛知県実践感染症カンファランス（年6回） 新規採用者ガイダンス（年1回） 研修医オリエンテーション（年1回） 新規採用看護師オリエンテーション（年1回） その他委託職員を対象に新型コロナウイルス感染症対策のための研修を都度実施</p>	
<p>感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p>	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICTによるラウンドの実施 リンクナースによる感染対策推進活動の実施 SSIサーベイランスの実施 ICUサーベイランスの実施 BSIサーベイランスの実施 全病院サーベイランスの実施 耐性菌サーベイランスの実施</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>「当院における疑義照会の現状」（Web開催）（令和3年7月27日～8月27日） 「医薬品医療機器等法に基づく副作用収集について」（Web開催） （令和4年3月22日～3月31日）</p>	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<p>・ 手順書の作成（有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と医薬品購入 2. 医薬品の管理に関する事 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事 4. 患者に対する与薬および薬剤管理指導業務に関する事 5. 医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関する事 6. 在宅患者への医薬品使用に関する事 7. 他施設との連携に関する事項 8. 医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修に関する事 9. 未承認新規医薬品等の適正使用に関する事 	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年31回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>例年4月、5月に新規採用医師・看護師に対し人工呼吸器，除細動器，輸液ポンプ，シリンジポンプの実機を用いて取り扱い説明，使用上の注意事項等の講習を行っている。その他に都度，現場からの要望や状況に応じて安全使用のための講習を実施している。</p> <p>(例) ・ 人工呼吸器取り扱い説明 ・ アフェレーシス勉強会 ・ 透析勉強会 ・ 除細動器勉強会</p>	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>例年3月には次年度計画として策定し，計画に基づき保守管理を実施している。実施については，業務委託もしくは臨床工学技士によって行われるが，いずれもメーカー推奨に準ずる。</p>	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>膵臓用瘻孔形成補綴材(申請却下) ステント適応外使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器を安全に使用するため，機器に注意喚起や使用法などを示すラベルの貼り付け。また，簡易マニュアルの作成や使用マニュアルなどを添付する。 現場単位のニーズに合わせた勉強会や，機器説明を行い情報の共有に努める。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者は、医療安全、医薬品安全、医療機器安全及び医療放射線安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。 ・医療安全管理責任者は、副院長として病院長の医療安全管理業務を補佐している。 ・医療安全管理責任者は、医療安全管理室の室長として医療安全管理部門を統括している。 ・医療安全管理室員、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し、院内の医療安全に関する情報の収集、改善方策の検討、指示等を行っている。 ・医療安全管理委員会の委員長となっている。 ・医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。 	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（16名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ○医薬品・医療機器等安全性情報とDSUは全病院職員にメールをしている。 ○回収案内に対して迅速に行動している。（全病院職員にメール、院内にある在庫の回収等） ○副作用情報の収集を行い、医療安全・院長・PMDAへ報告を行っている。 ○薬剤部員に対して、新規採用医薬品や限定購入医薬品の薬の情報を伝える。 ○供給制限に関する情報を迅速に行動している。（全病院職員へメール、代替品の検討） ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>以下の方法にて未承認等の医薬品の使用状況を把握し、については必要がある場合には未承認新規医薬品等評価部門への申請を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請 医師からの使用成績報告書の提出 院内製剤の処方歴 病棟担当薬剤師からの情報提供 調剤室、注射室担当薬剤師からの情報提供 薬剤部（DI室、未承認新規医薬品等評価部門等）への問い合わせ 	

・担当者の指名の有無 (・無)

未承認新規医薬品等評価部門長 大西正文
 未承認新規医薬品等評価部門委員 牛田亨宏，前川正人，加藤栄史，矢野智紀，
 辻晶，中村勝，宇野英理子，野々垣知行
 未承認新規医薬品等評価部門事務局 深谷さおり，黒瀬優輔
 未承認新規医薬品等評価委員会委員長 牛田亨宏
 未承認新規医薬品等評価委員 前川正人，加藤栄史，三嶋秀行，杉本郁夫，手塚剛彦

・担当者の所属・職種：

大西正文 (所属：薬剤部，職種：薬剤師)
 牛田亨宏 (所属：いたみセンター，職種：医師)
 前川正人 (所属：総合診療科，職種：医師)
 加藤栄史 (所属：輸血部，職種：医師)
 矢野智紀 (所属：呼吸器外科，職種：医師)
 辻 晶 (所属：臨床工学部，職種：臨床工学技士)
 中村 勝 (所属：中央放射線部，職種：診療放射線技師)
 宇野英理子 (所属：薬剤部，職種：薬剤師)
 野々垣知行 (所属：薬剤部，職種：薬剤師)
 深谷さおり (所属：薬剤部，職種：薬剤師)
 黒瀬優輔 (所属：薬剤部，職種：薬剤師)
 三嶋秀行 (所属：臨床腫瘍センター，職種：医師)
 杉本郁夫 (所属：医療安全管理室，職種：医師)
 手塚剛彦 (所属：薬剤部，職種：薬剤師)

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
 【遵守状況の確認】

・医療安全管理院内小ラウンド及び全体ラウンドにおいて、スタッフにヒアリング，指導を実施。また，患者カルテにて説明・同意書の内容，同意取得時の患者家族の理解度についての記載を確認。

【指導の主な内容】

- ・ I・Cの手順が規程どおりに進められているか。
- ・ I・Cの説明内容が規程どおりとなっているか。
- ・ 説明書及び同意書に規程どおり必要項目は網羅されているか。
- ・ 説明書及び同意書が規程どおり必要な診療行為かどうか。
- ・ 説明書及び同意書の出力，署名，保存方法は規程どおり適切かどうか。
- ・ I・Cの実施状況についての職員研修会での指導。

診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

- ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録不備に対する項目を主治医に通知し，追記および訂正を依頼する。

毎週月曜日に各診療科全体の記載不備事項を各診療科部長および医局長に通知する。

サマリー完成率を部長会および医局長会で通知し，記載遅滞医師を公表する。

年4回質的監査を行い診療録管理委員会にて結果を公表し，適切な指導をする。

医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・ 所属職員：専従（11）名、専任（1）名、兼任（2）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

- ・ 活動の主な内容：

1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。
2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。
3. 医療事故発生時の対応に関すること。
4. 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握
5. 職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認
6. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。
7. 医療安全管理に関する院内の連絡調整
8. その他医療安全管理に関する業務

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ・ 転倒・転落の発生状況を診察内容のモニタリング事項としている。医療安全管理委員会の専門委員会として転倒転落防止対策ワーキングを設置しており、転倒・転落発生時には、WGメンバーでヒアリングを行い、院内全体の発生状況を把握して、再発防止策を検討している。
- ・ 医療安全に関する講演会、研修会でアンケートを実施し、認識や理解度を確認している。
- ・ 全職員対象に日本医療機能評価機構の「医療安全文化に関する意識調査」を実施し、結果を職種ごとに考察している。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 診療科の長から高難度規程第5条第1項の規程に基づく申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会（以下「委員会」という）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。
 - ・ 高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等についての意見の求めに応じ、委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること。
 - ・ 高難度規程に基づき、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、その都度診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、職員の遵守状況を確認すること。
 - ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号により職員の遵守状況を確認したときは、その内容について病院長に報告すること。
 - ・ 委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存すること。
 - ・ 委員会に係る事務を行うこと。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（21件）、及び許可件数（17件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品等使用申請の内容確認，評価委員会への審議依頼，使用の適否等の決定，申請資料・調査資料等の保管
 - ・申請医薬品使用患者のカルテ・順守状況等の確認，使用成績報告書の確認
 - ・上記内容につき院長への報告書を適宜作成，月間報告書の作成
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 469 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 18 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1．入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関する事。
 - 2．1の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関する事。

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り
((病院名：日本医科大学付属病院，国立がん研究センター中央病院)・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ
((病院名：日本医科大学付属病院，国立がん研究センター中央病院)・無)
- ・技術的助言の実施状況
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため，相互に訪問するラウンドが原則中止となり，書類による確認・質問，WEB会議による質疑応答の実施をしたが，双方において技術的助言はなかった。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を中央棟 1 階 15 番窓口を設置している。

担当者は、看護師、薬剤師、社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。

責任者は、医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）としている。

対応時間は、月曜日から金曜日（祝日・休日・年末年始を除く）午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとしている。

患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに、関係部署に対しても報告し、速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。

担当者及び関係者の守秘義務について医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱に明記）

担当者及び関係者は、苦情・相談により患者や家族が不利益を受けないよう適切な配慮をしなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱に明記）

担当者及び関係者は、患者、家族等からの苦情・相談内容の秘密保護に努めなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱に明記）

患者相談窓口があることについて、ホームページ、院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理に係る職員研修実施要領において、研修項目として次の事項を定めている。

《医療安全管理に関する職員研修》

- ・ インシデント報告、アクシデント報告等の流れ、医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項
- ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 診療録管理規程の遵守状況に関する事項
- ・ 職員の安全意識の状況に関する事項
- ・ 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項

- ・ 高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 医療安全の確保に関する監査委員会からの意見に関する事項
- ・ 全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
- ・ 私立大学病院相互ラウンドに関する事項
- ・ 患者相談に関する事項
- ・ 病院機能評価による評価を踏まえた医療安全の確保に必要な措置に関する事項
- ・ 医療安全に関する情報提供受付窓口の使用方法に関する事項
- ・ 医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項
《医薬品の安全使用に関する職員研修》
- ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する事項
- ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項
- ・ 医薬品による副作用等が発生した場合の対応(施設内での報告、行政機関への報告等)に関する事項

《医療機器の安全使用に関する職員研修》

- ・ 新しい医療機器の導入時の研修
- ・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項
- ・ 医療機器の使用方法に関する事項
- ・ 医療機器の保守点検に関する事項
- ・ 医療機器の不具合等が発生した場合の対応(院内での報告、行政機関への報告等)に関する事項
- ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項

開催頻度は，医療安全管理に関する職員研修は年に2回程度。医薬品・医療機器の安全使用に関する職員研修は必要に応じて実施しており，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行う。

医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については，DVD鑑賞，e-learning等を活用して，全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記載すること(の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

令和3年11月10日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：

令和3年11月22日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：

令和3年12月23日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：

令和3年11月10日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する一般病院3の認定を受けている。

（認定期間：2020年10月17日から2022年12月31日まで）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて好評

・評価を踏まえ講じた措置

職員を対象とした心肺蘇生訓練について、受講率の向上に取り組むよう指摘を受けたため、全病院職員がBLS研修を受講するよう計画を策定し、今年度から実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 臨床医学部門の教授（大学附属施設，医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。）であること。 2 医療安全管理業務の経験，患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。 3 医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること。 4 病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>一 病院の運営方針に関すること。 二 病院の中期計画に関すること。 三 病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関すること。 四 各種の委員会の設置及び改廃に関すること。 五 病院の予算及び決算に関すること。 六 病院職員の人事に関すること。ただし、病院事務職員は除く。 七 病室及び病床等の運用に関すること。 八 医学部学生、看護学生等の臨床実習に関すること。 九 臨床研修医の研修に関すること。 十 その他病院の運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局長会、看護師長会、業務連絡会等を通じて周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
道勇 学	○	医師	病院長
加納秀記		医師	副院長
三嶋秀行		医師	副院長
牛田享宏		医師	副院長
都築豊徳		医師	副院長
杉本郁夫		医師	副院長
藤本保志		医師	副院長
天野哲也		医師	副院長
中野正吾		医師	副院長
井上里恵		看護師	副院長
三木篤也		医師	眼科クリニック MiRAI クリニック長
羽生田正行		医師	メディカルセンター病院長
春日井邦夫		医師	部長（消化管内科）
米田政志		医師	部長（肝胆膵内科）

伊藤 理		医師	部長（呼吸器・アレルギー内科）
石本卓嗣		医師	部長（腎臓・リウマチ膠原病内科）
高見昭良		医師	部長（血液内科）
神谷英紀		医師	部長（糖尿病内科）
兼本浩祐		医師	部長（精神神経科）
奥村彰久		医師	部長（小児科）
佐野力		医師	部長（消化器外科）
松山克彦		医師	部長（心臓外科）
石橋宏之		医師	部長（血管外科）
福井高幸		医師	部長（呼吸器外科）
小林孝彰		医師	部長（腎移植外科）
宮地茂		医師	部長（脳神経外科）
高橋伸典		医師	部長（整形外科）
渡辺大輔		医師	部長（皮膚科）
佐々直人		医師	部長（泌尿器科）
若槻明彦		医師	部長（産科・婦人科）
瓶井資弘		医師	部長（眼科）
柿崎裕彦		医師	部長（眼形成・眼窩・涙道外科）
鈴木耕次郎		医師	部長（放射線科）
前川正人		医師	部長（総合診療科）
古川洋志		医師	部長（形成外科）
渡邊栄三		医師	部長（救命救急科）
尾川貴洋		医師	部長（リハビリテーション科）
篠邊龍二郎		医師	部長（睡眠科）
三嶋廣繁		医師	部長（感染症科）
風岡宜暁		医師	部長（歯科・口腔外科）
中山亨之		医師	部長（中央臨床検査部）
伊藤 洋		医師	部長（中央手術部）
加藤栄史		医師	部長（輸血部）
山田恭聖		医師	部長（周産期母子医療センター）
久保昭仁		医師	部長（臨床腫瘍センター）
矢野智紀		医師	部長（臨床腫瘍センター）
森直治		医師	部長（緩和ケアセンター）
藤田義人		医師	部長（周術期集中治療）
原 政人		医師	部長（脊椎脊髄センター）
丹羽淳一		医師	部長（医療福祉相談部）
福沢嘉孝		医師	部長（先制・統合医療包括センター）
齋木英資		医師	部長（パーキンソン病総合治療センター）
佐々木誠人		医師	部長（炎症性腸疾患センター）
奥村将年		医師	部長（NP部）
深津博		医師	部長（医療情報部）
大西正文		薬剤師	部長（薬剤部）
市川光生		事務職員	部長（病院事務部）
矢内亨扶		事務職員	部長（医事管理部）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
- 1 「事務決裁規程」等において、病院長の人事権限等を明確化している。
- 2 「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において、病院長の予算執行権限を明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

職名：副院長

役割：

- 一 病院の経営企画に関すること
- 二 医療安全管理・院内感染対策に関すること
- 三 地域医療連携に関すること
- 四 がんに関する診療連携等の統括・推進に関すること
- 五 卒後臨床研修・専門医制度に関すること
- 六 病院の広報に関すること
- 七 救急医療・災害医療に関すること
- 八 医療情報の管理・運用に関すること
- 九 チーム医療に関すること
- 十 看護に関すること
- 十一 その他病院長が必要と認めた業務

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

年1回、各職種の管理職以上を対象とした「病院経営人材育成研修会」を開催している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 ・必要に応じ，理事長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法：</p> <p>ホームページにて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聡	愛知学院大学 名誉教授		法律学に関する 専門知識に基づ いて，教育，研究 又は業務を行っ ている者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会 会長		医療機関におい て医療安全に関 する業務に従事 した経験を持つ 者又は医療安全 に係る研究に従 事した経験を有 する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鈴木孝美	長久手市・副市 長		医療等の内容及 び説明並びに同 意文書が一般的 に理解できる内	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

			容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べるができる者		
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容

業務活動が法令並びに本学の方針，計画，制度及び諸規則に準拠し，適正に行われているか監査する体制が整っている。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>病院の管理運営状況の監督については、病院の開設者である理事長を含む常任理事会が、定期的に報告される病院運営状況について検討を行い、必要に応じて理事会に報告を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年33回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年33回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
祖父江元	愛知医科大学（理事長・学長）	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
笠井謙二	愛知医科大学（医学部長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
道勇学	愛知医科大学（病院長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
羽生田正行	愛知医科大学 （メディカルセンター病院長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
坂本真理子	愛知医科大学（看護学部長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
伊藤恭彦	愛知医科大学 （眼科クリニック MIRAI 担当理事）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
島田孝一	愛知医科大学（法人本部長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
羽根田雅巳	愛知医科大学（事務局長）		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 職員用ホームページにて周知している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：リーフレットの配布・掲示，ホームページ，病院広報誌など</p> <p>内容：当院の医療連携上の役割，前方，後方連携の協力要請など</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来において，循環器内科と心臓外科・血管外科，消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し，共同診療に配慮している。</p> <p>診療科間で依頼箋により情報交換し，専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては，共同カンファレンスを行って診療している。</p> <p>疾患の必要に応じて，複数の診療科による共同の手術を行っている。</p> <p>救命救急センターにおいて，救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い，連携して診療に当たっている。</p>	